平成11年度版

こころの健康センター所報

三重県こころの健康センター
（精神保健福祉センター）

はじめに

平成11年度の活動を所報としてまとめましたので、お届け致します。

平成11年度は、運営要領に定められた事業に加えて２つの新しい事業を開始しました。

１つはストレス対策事業です。ボディーソニックを使ったストレス・チェックやリラクゼーション、ストレス相談からなる簡易なものですが、幸い県民の皆様からはご好評をいただき、予想をこえた予約状況が続いています。少ない職員でのやりくりはなかなか大変ですが、さらにストレス・アセスメントやマネージメントの方法を工夫して事業の質を高めようと検討を続けています。健康日本・21でもこころの健康が取り上げられ、平成11年度末にはこころの健康づくり対策が出されました。センターでのこの事業を出発点としてさらに包括的なこころの健康づくりを考えていきたいと思っています。

もう１つは薬物相談ネットワーク事業です。薬物相談を中心に、関係機関のネットワーク化や研修を行いましたが、こちらも予想以上の反響がありました。同時にさまざまな課題や困難も見えてきました。幸い三重ＤＡＲＣの皆さんとは日常的に行き来ができるようになりましたので、今後もともにこの問題に取り組んでいきたいと思います。中学、高校生を対象とした予防教育プログラムも充実する必要がありそうです。

従来業務は、皆様のご支援を賜って順調に推移しました。各事業とも平成元年度の３倍程度に増加してきています。特に相談の増加は著しく、電話相談は常にふさがっているため、事務室にかけてこられる方も少なくありません。また来所相談の方も相談室自体が足りなくなりがちな状況です。内容的には、ここ数年「ひきこもり」の急増が特徴的です。新潟の少女監禁事件直後には集中的に相談が寄せられ、あらためて、この問題の深刻さを認識しました。

技術支援も多方面に広がってきています。メンタルヘルスの性格を考えれば当然のことですが、保健福祉領域のみならず、教育、司法警察、産業等でもようやくメンタルヘルス・ケアへの取り組みが本格化してきたことによるものと思います。

さらに、平成元年から継続してきたボランティア養成（ボランティア教室）は11年度をもって終了することにしました。400人以上の方が受講されたこの教室も、今では県下各地にボランティア・グループが結成されるようになり、当初のパイロット的役割を果たし終えました。11年度には、県下のボランティア・グループの連絡協議会が結成されましたので、今後はこの協議会のバックアップをさせていただくことになります。

最後に今年４月から改正精神保健福祉法が施行されます。昨年10月、三重県で開催された精神保健福祉全国大会でも実感されたことですが、当事者や関係者のあり方も大いに変わってきています。ここでも当事者や県民の皆様との協働が問われそうです。

引き続きご支援を賜りますようお願い申しあげます。

平成12年夏

三重県こころの健康センター
所長　原田雅典

目　　次

はじめに

Ⅰ．こころの健康センター概要 …… 1
1．沿　革 …… 1
2．業　務 …… 1
3．施設の概要 …… 2
4．組織及び職員 …… 4

Ⅱ．こころの健康センターの活動 …… 5
1．企画・立案 …… 5
2．技術指導・技術援助 …… 7
(1) 保健福祉部（保健所）に対する技術指導・技術援助 …… 9
(2) 市町村に対する技術指導・技術援助 …… 10
(3) 福祉機関に対する技術指導・技術援助 …… 10
(4) 教育機関に対する技術指導・技術援助 …… 11
(5) 医療機関に対する技術指導・技術援助 …… 11
(6) 司法機関に対する技術指導・技術援助 …… 12
(7) 労働・産業機関に対する技術指導・技術援助 …… 12
(8) 各種精神保健団体に対する技術指導・技術援助 …… 13
(9) その他の機関・団体に対する技術指導・技術援助 …… 13
3．教育研修 …… 15
(1) 精神保健福祉研修 …… 15
(2) 学生実習 …… 19
(3) 社会復帰指導者研修（デイケア） …… 19
4．普及啓発 …… 23
(1) センターだより「こころの健康」の発行 …… 23
(2) 所報「平成10年度版こころの健康センター所報」の発行 …… 23
(3) ポスター、リーフレット、パンフレットの作成 …… 23
(4) 講演活動 …… 25

5．精神保健福祉相談 …… 29
(1) 精神保健福祉相談（こころの健康相談・こころのテレフォン相談） …… 29
(2) 思春期講座 …… 37
6．組織育成 …… 41
(1) 家族会・リーダー研修会 …… 41
(2) 精神保健ボランティア教室 …… 42
(3) 思春期アドバイザー養成講座 …… 44
(4) 断酒会・アルコールネットワーク …… 46
7．精神障害者福祉推進事業 …… 47
(1) 精神障害者就労相談 …… 47
(2) 精神障害者自立援助 …… 49
(3) 社会復帰関連施設支援 …… 50
8．調査・研究 …… 51
9．ストレス対策事業 …… 53
10．薬物相談ネットワーク事業 …… 55

Ⅲ．資　料　編 …… 63

凡　例

統計表や一覧表において、次の通り略号を用いた。

D　R…医師
PSW…精神科ソーシャルワーカー
PHN…保健婦
C　P…心理技術者

Ⅰ．こころの健康センター概要

1．沿　　革

2．業　　務

3．施設の概要

4．組織及び職員

1．沿　　革

（平成12年４月現在）

三重県こころの健康センター（精神保健福祉センター）は、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第６条の規定に基づいて設けられた、地域精神保健福祉活動の技術的中枢機関である。

○昭和61年５月　三重県津庁舎津保健所棟１階（津市桜橋３丁目446－34）に開設され、保健環境部保健予防課の分室としてスタートする。

○昭和63年10月　三重県久居庁舎（久居市明神町2501－1）の完成に伴い、同１階に移転。

○平成元年４月　県健康対策課の地域機関として独立（三重県条例第五号）。

○平成11年４月　診療（投薬）開始（三重県条例第五号の一部改正）。

○平成11年８月　三重県久居庁舎４階にストレスケア・ルーム増設。

2．業　　務

当こころの健康センターは、「精神保健福祉センター運営要領」（健医発第57号厚生省公衆衛生局長通知、平成８年１月19日）に基づき、次の業務を行っている。管轄は、県下全域である。

(1)　企画立案

地域精神保健福祉を推進するため、都道府県の精神保健福祉主管部局及び関係諸機関に対し、専門的立場から、社会復帰の推進方策や、地域における精神保健福祉施策の計画的推進に関する事項等を含め、精神保健福祉に関する提案、意見具申等をする。

(2)　技術指導及び技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町村及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導及び技術援助を行う。

(3)　教育研修

保健所、市町村、福祉事務所、社会復帰施設その他の関係諸機関等で精神保健福祉業務に従事する職員等に、専門的研修等の教育研修を行い、技術的水準の向上を図る。

(4)　普及啓発

都道府県規模で一般住民に対し精神保健福祉の知識、精神障害についての正しい知識、精神障害者の権利擁護等について普及啓発を行うとともに、保健所及び市町村が行う普及啓発活動に対して専門的立場から協力、指導及び援助を行う。

(5)　調査研究

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と社会経済活動への参加の促進等についての調査研究をするとともに、必要な統計及び資料を収集整備し、都道府県、保健所、市町村等が行う精神保健福祉活動が効果的に展開できるよう資料を提供する。

(6)　精神保健福祉相談

センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難なものを

行う。心の健康相談から、精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、アルコール、薬物、思春期、痴呆等の特定相談を含め、精神保健福祉全般の相談を実施する。センターは、これらの事例についての相談指導を行うためには、総合的技術センターとしての立場から適切な対応を行うとともに、必要に応じて関係諸機関の協力を求めるものとする。

(7) 組織育成

地域精神保健福祉の向上を図るためには、地域住民による組織的活動が必要である。このため、センターは、家族会、患者会、社会復帰事業団体など都道府県単位の組織の育成に努めるとともに、保健所、市町村並びに地区単位での組織の活動に協力する。

平成11年4月より、以下の2事業が新たに加わった。

(8) ストレス対策事業

ストレスを避けて通れない現代社会において、すべてのライフサイクルを通じて、メンタルヘルスが重要課題となっている。一般住民の心の健康を維持向上させ、かつ適応障害などの境界域の心の病を持つ人々への社会的支援体制を確立するため、保健所と一体的な地域におけるメンタルヘルス支援体制をはかる。

(9) 薬物相談ネットワーク事業

こころの健康センターの薬物相談機能を充実し、それを中核とする薬物相談ネットワークを構築することにより、薬物相談に総合的に対応する体制を整備する。また、相談応需職員の研修を行う。

3. 施設の概要

(1) 所在地

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津市桜橋3丁目446－34　三重県津庁舎津保健所棟1階

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居市明神町2501－1　　三重県久居庁舎

(2) 施設の状況

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津庁舎津保健所棟1階　　1室　52.9㎡

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居庁舎1階

ア　敷地面積（久居庁舎）　　11,617.29㎡

イ　建物面積（本館棟）　　延床面積　5,484.50㎡

ウ　建物構造（本館棟）　　鉄筋コンクリート造4階建、一部5階建

エ　当センター占有面積　　723.0㎡

オ　各室面積

事務室（電話相談室、所長室）65.2㎡　　第1デイルーム　　140.4㎡

第１相談室（脳波、心理検査室）	30.8㎡	第２デイルーム（和室）	44.8㎡
第２相談室	23.9㎡	陶芸室	11.3㎡
第３相談室（診察室）	26.5㎡	更衣室、湯沸室	12.0㎡
図書資料室	37.0㎡	各室面積　計	391.9㎡

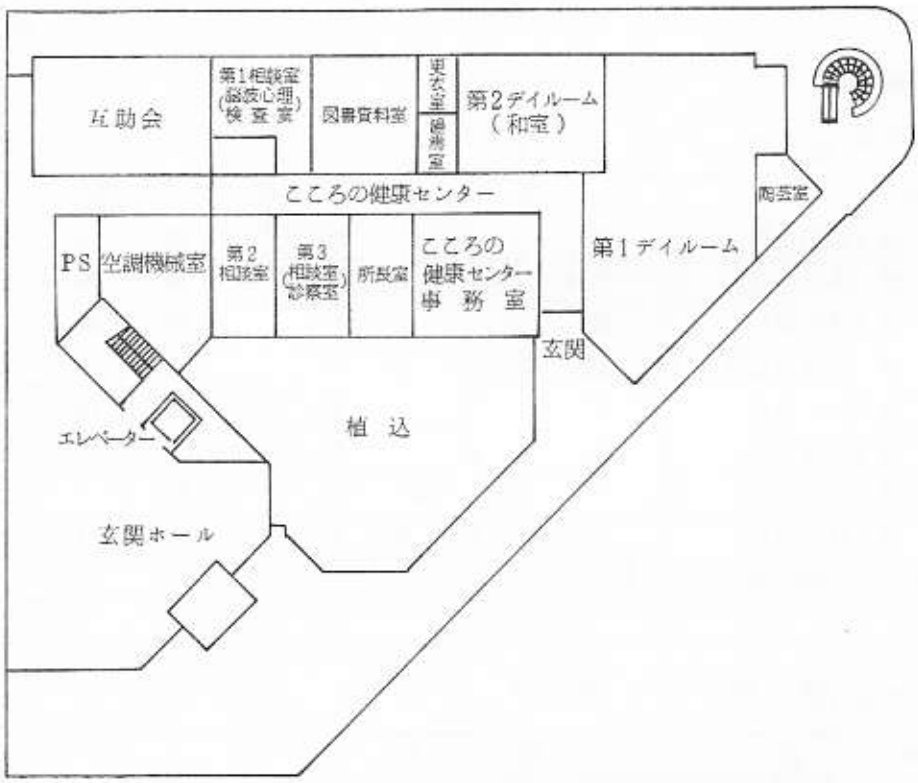
〔平成11年８月15日以降増設分〕

ストレスケアルーム

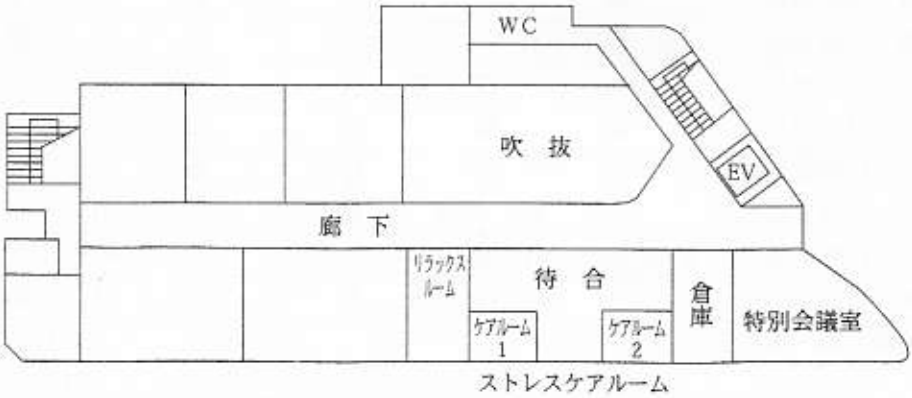
ケアルーム　1
ケアルーム　2
リラックスルーム　　各室面積　計　156.6㎡

三重県こころの健康センター平面図

（１階）



（４階）



4．組織及び職員

（平成12年４月現在）

(1) 所掌事務

- 所長
  - 事務部門
    - 庶務一般
    - 企画立案
    - 技術指導・技術援助
    - 教育研修
    - 薬物相談ネットワーク事業
    - 組織育成
    - ストレス対策事業
    - 調査研究
    - 精神保健福祉相談
    - 精神障害者福祉推進事業
    - 普及啓発
  - 業務部門

企画・指導グループ

グループリーダー　主幹　村木顕太郎
主幹　久保早百合
主幹　安保　明子
主事　西山　幸子
技師　西崎　水泉

相談・援助グループ

グループリーダー　副参事　松崎　まみ
主査　藤田　典子
技師　山口　裕子

(2) 職員構成

〔平成11年度〕

職名	職種	氏名
所長（技術吏員）	医師	原田雅典
主幹（事務吏員）	精神科ソーシャルワーカー	村木顕太郎
主幹（技術吏員）	医師	松崎まみ
主幹（技術吏員）	心理技術者	久保早百合
主幹（技術吏員）	保健婦	安保明子
主査（技術吏員）	保健婦	藤田典子
主任主事（事務吏員）	一般事務	林いっ子
技師（技術吏員）	心理技術者	山口裕子
電話相談員（嘱託）		2名
計		10名

〔平成12年４月現在〕

職名	職種	氏名
所長（技術吏員）	医師	原田雅典
副参事（技術吏員）	医師	松崎まみ
主幹（事務吏員）	精神科ソーシャルワーカー	村木顕太郎
主幹（技術吏員）	心理技術者	久保早百合
主幹（技術吏員）	保健婦	安保明子
主査（技術吏員）	保健婦	藤田典子
主事（事務吏員）	一般事務	西山幸子
技師（技術吏員）	保健婦	西崎水泉
技師（技術吏員）	心理技術者	山口裕子
電話相談員（嘱託）		2名
計		11名

Ⅱ．こころの健康センターの活動

1．企 画 ・ 立 案

2．技術指導・技術援助

3．教 育 研 修

4．普 及 啓 発

5．精神保健福祉相談

6．組 織 育 成

7．精神障害者福祉推進事業

8．調 査 ・ 研 究

9．ストレス対策事業

10．薬物相談ネットワーク事業

○ 1. 企　画　・　立　案 ○

企画・立案

関係機関の行う精神保健福祉事業に対し、その企画立案について助言、提言を行っている。主な関係機関は各保健福祉部、行政機関、市町村であるが、内容は、精神保健福祉法の改正に伴う体制整備に関すること、メンタルヘルス関連事業がその主なものである。

殊に今年度は、精神保健福祉法の改正に沿って、こころの健康センター、保健福祉部、市町村の体制を新しく構築する準備として、こころの健康センターと県下保健福祉部の精神保健福祉担当保健婦でワーキンググループを設置した。

そこで、県下の精神保健福祉の現状と課題を明確にし、今後のそれぞれの事業運営に役立てることとなっている。

〔現状と課題〕

・保健福祉部の機構改革により、業務の見直し、効率化が必要

・精神保健福祉業務の市町村委譲について

　意識はあるが具体的に進めているところは少なく、体制づくりが必要

　市町村保健婦は精神保健福祉に関する専門的教育研修の地域開催を望んでいる

・現行の業務のうち、広域で実施可能なものについては、その方向で進める

・地域精神保健連絡会「運営委員会」を中心に体制づくりを行う

・職員研修の場を提供する（保健福祉圏域、保健所管内で開催を検討していく）

○ 2. 技術指導・技術援助 ○

(1) 保健福祉部（保健所）に対する技術指導・技術援助

(2) 市町村に対する技術指導・技術援助

(3) 福祉機関に対する技術指導・技術援助

(4) 教育機関に対する技術指導・技術援助

(5) 医療機関に対する技術指導・技術援助

(6) 司法機関に対する技術指導・技術援助

(7) 労働・産業機関に対する技術指導・技術援助

(8) 各種精神保健団体に対する技術指導・技術援助

(9) その他の機関・団体に対する技術指導・技術援助

技術指導・技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するために、関係機関に対して、専門的立場から情報提供や助言、講師派遣、コンサルテーション等の技術指導援助を行っている。

平成11年度の関係機関別の技術指導援助の状況は、表1に示すとおりで、総回数は 762件、対前年比は85%である。

関係機関別では図1に示すとおりで、1．保健所、2．一般行政、3．教育機関、4．市町村、5．その他の順となっている。

経年的にみた関係機関への技術指導援助実績は、表2のとおりで、過去2～3年に於いて、市町村、司法機関の技術指導援助が増加している。

関係機関への技術指導援助の内容は図2に示すとおりで、1．ケース援助、2．情報提供、3．その他の順になっている。

表1　平成11年度　関係機関への技術指導援助

関係機関	実施回数	参加人数	技術指導援助内容											職種別指導援助回数						
			企画助言	情報提供	ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会研究会	連絡調整	委員会会議	行政実施指導	調査研究	その他	DR(A)	DR(B)	PSW	CP(A)	PHN(A)	PHN(B)	CP(B)
	回	人	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回
保健所	150	983	22	39	27	3	3	27	5	13	0	0	11	18	13	9	46	77	16	10
福祉機関	54	584	1	11	21	2	0	15	1	0	0	0	3	7	5	4	21	13	4	4
医療機関	57	116	1	20	13	0	0	1	1	0	0	0	21	36	2	2	13	3	3	2
行政機関	131	438	21	22	6	0	0	8	5	13	16	0	40	83	17	3	15	10	1	2
教育機関	127	408	2	18	45	11	0	38	1	2	0	2	8	27	5	5	73	7	1	9
市町村	79	320	11	15	36	1	2	10	4	0	0	0	0	9	7	6	16	38	1	2
労働機関	13	13	0	6	2	0	0	0	1	1	0	0	3	3	0	2	5	1	0	2
司法機関	26	26	1	3	9	0	0	11	2	0	0	0	0	7	5	1	12	1	0	0
精神保健団体	41	41	2	6	6	0	0	1	3	0	0	1	22	20	0	6	5	9	1	0
学生教育実習	9	9	0	1	0	0	0	3	0	0	0	1	4	6	0	1	0	2	0	0
その他	75	3,029	1	16	11	1	0	7	2	3	0	3	31	51	1	4	10	3	5	1
計	762	5,967	62	157	176	18	5	121	25	32	16	7	143	267	55	43	216	164	32	32

表２　関係機関への技術指導援助実績（年度別）

区分＼年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
保健所	181	195	203	119	270	345	242	224	150
行政	59	84	113	72	103	129	164	167	131
市町村	16	26	21	32	37	51	71	83	79
医療	43	95	107	46	60	49	36	46	57
福祉	41	48	67	43	31	63	43	57	54
教育	69	78	69	80	106	148	151	170	127
労働	4	26	38	10	22	7	5	18	13
司法	3	5	2	0	2	3	4	24	26
各種精神保健団体	11	18	23	22	31	20	55	32	41
学生教育・実習	35	32	31	22	9	5	7	8	9
その他	26	27	22	4	30	45	53	67	75
合計	488	634	696	530	701	765	831	896	762

図１　平成11年度　関係機関への技術指導援助

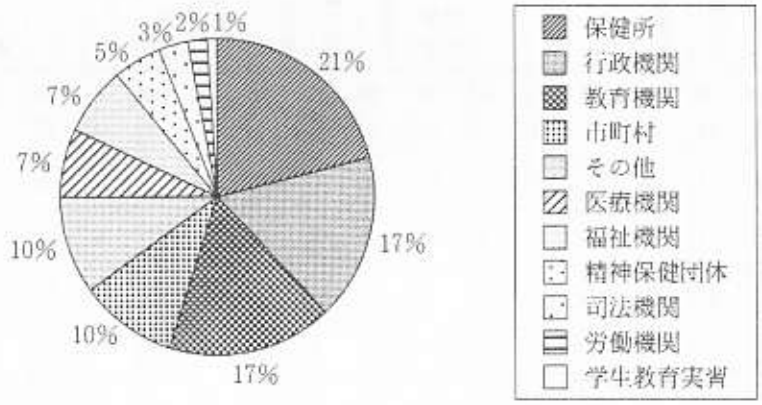
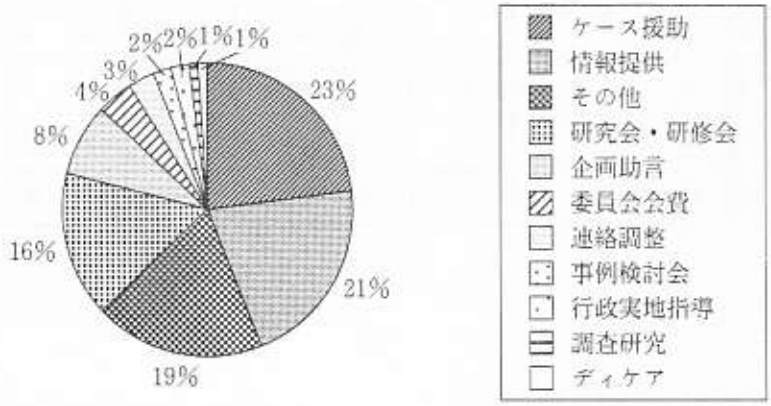


図２　技術指導援助内容



(1) 保健福祉部（保健所）に対する技術指導・技術援助

地域精神保健福祉の第一線を担う保健所の技術指導援助は開設以来、重点的に進めており、その実績は、数年来、全体の20%以上を占めている。

援助内容の主なものは、① 情報提供、② ケース援助、③ 研究・研修となっている。

情報については、精神保健福祉法の一部改正に関する内容の問い合わせが多く、ケース援助については、ケアの補完性がない体制の中で、困難事例の対応に苦慮している現状が窺われ、援助技術向上のために、今後その分野に於けるセンター研修機能の強化が必要である。

各保健所毎の技術指導・技術援助実施状況を表3に示した。

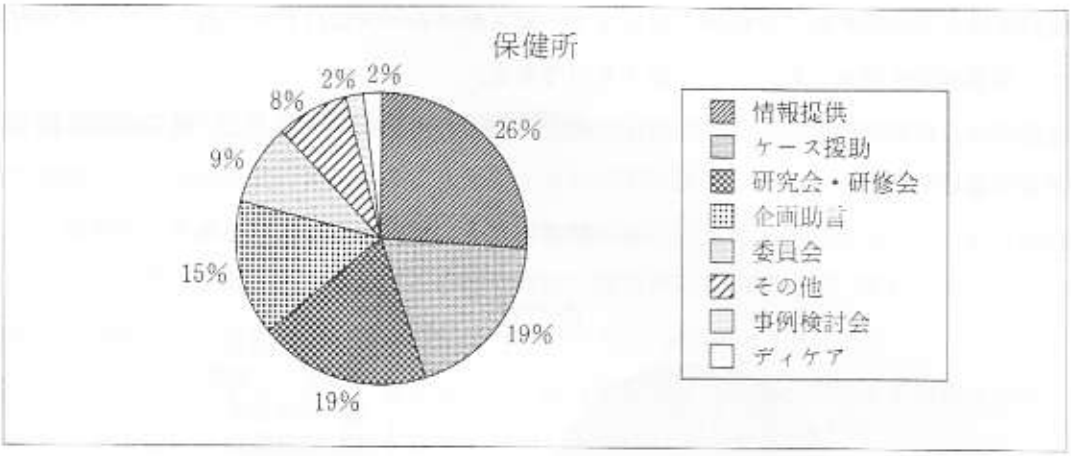


表3　平成11年度　保健福祉部技術指導援助実施状況

保健所 保健福祉部	実施回数(回)	参加人数(人)	指導援助内容(回)										
			企画助言	情報提供	ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会研究会	連絡調整	委員会会議	行政実施指導	調査研究	その他
桑名	7	54	1	1	1	0	0	2	0	1	0	0	1
四日市	10	60	1	3	3	0	0	1	0	0	0	0	2
鈴鹿	14	109	4	4	4	0	1	1	0	0	0	0	0
津	18	98	2	6	4	0	0	1	1	2	0	0	2
久居支所	8	80	0	3	2	1	0	1	0	1	0	0	0
松阪	30	189	7	7	2	0	0	6	1	4	0	0	3
南勢志摩	17	79	3	2	4	2	0	3	2	1	0	0	0
志摩支所	16	111	1	5	0	0	2	4	0	3	0	0	1
伊賀	13	92	0	1	7	0	0	3	1	1	0	0	0
紀北	9	76	0	4	0	0	0	3	0	0	0	0	2
紀南	4	35	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1
県下全域(ブロック)	4	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	150	983	23	37	27	3	3	27	5	13	0	0	12

(2) 市町村に対する技術指導・技術援助

市町村への技術指導援助は、ここ3～4年で急激に増加している。

援助内容の主なものは、①ケース援助、②情報提供、③企画助言である。

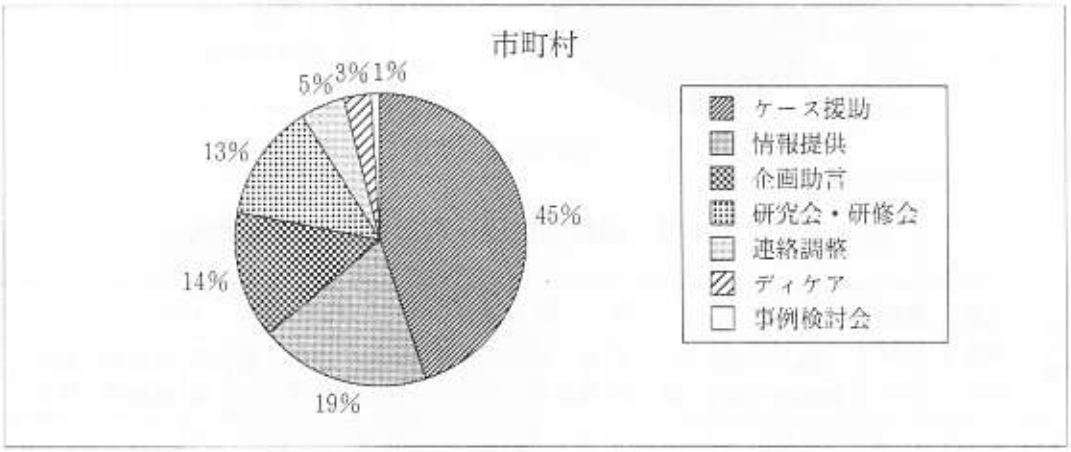
ケース援助については、町村の保健婦からの要請が殆どで、内容は一時相談での痴呆、アルコール、精神分裂病の対応に関するものが多く、今後は保健福祉部との調整が必要。

又、市町村職員の精神保健福祉に関する理解を求めるため、平成9年度から医師、保健婦、精神科ソーシャルワーカー、心理技術者でこころの機動班を編成して、市町村に出向き、健康相談、事例検討会を実施してきた。

平成14年度からの市町村での精神保健福祉サービスがスムーズに行われる為、これらの市町村が継続して、事業展開を進められることを願うものである。

情報提供は、精神保健福祉法の一部改正に伴う市町村の役割に関すること、精神疾患に関すること等が主な内容である。

企画助言は、市町村が行うメンタルヘルス関連事業への助言が主な内容である。

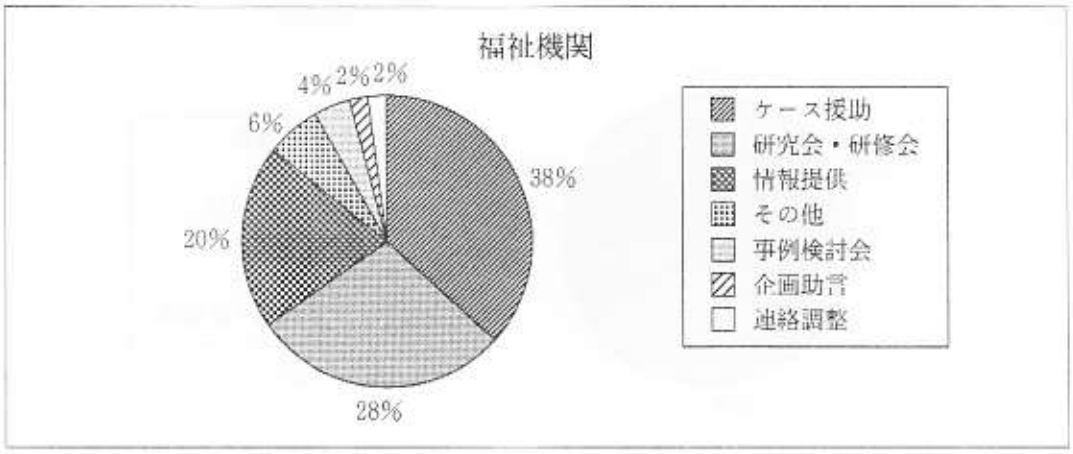


(3) 福祉機関に対する技術指導・技術援助

福祉機関の技術指導援助先は、福祉事務所、児童相談所、保育所で①ケース援助、②研究会・研修会、③情報提供が主な内容である。

福祉事務所のケース援助は精神障害、痴呆疾患のあるケースの対応について、児童相談所は思春期の精神疾患、薬物乱用について、保育所は気になる子どもの処遇をめぐる相談が多い。

又、社会福祉協議会が開催するホームヘルパー研修会、ボランティア研修会に講師を派遣することが増えている。

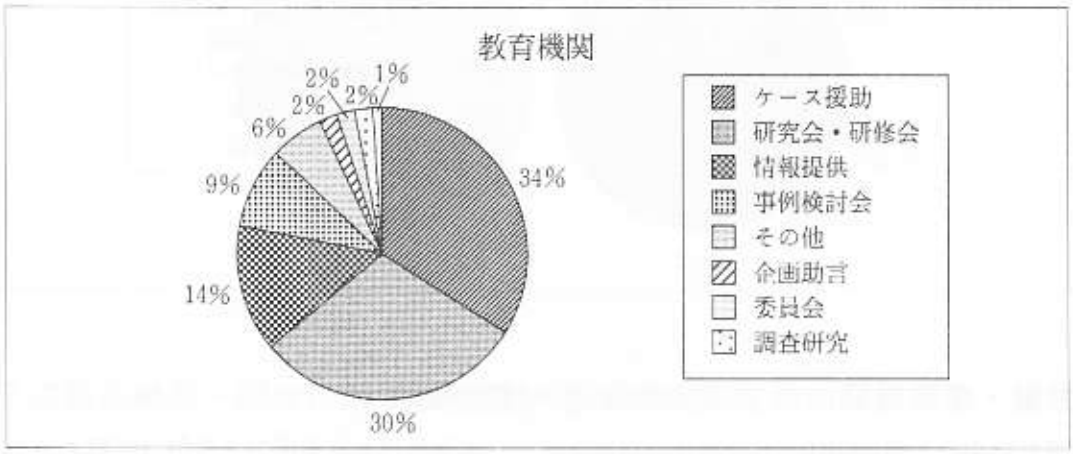


(4) 教育機関に対する技術指導・技術援助

教育機関からの技術援助の要望はここ5年間くらいの間に急増しており、技術指導援助全体の17%を占め、保健所についで2番目になっている。

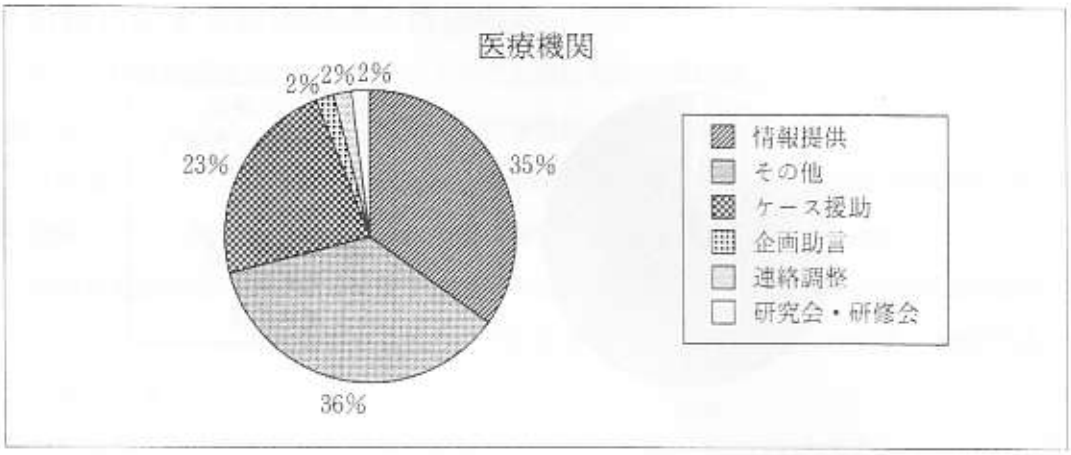
ひきこもり、学習障害、摂食障害、その他不適応状態のケースが増加し、それに伴う①ケース援助、②研究会・研修会、③情報提供が援助の主な内容である。

又、このことに対応するために、教育研究所、教育委員会、各学校が開催する事例検討会、学校カウンセリング研修への企画助言、講師派遣が増加している。



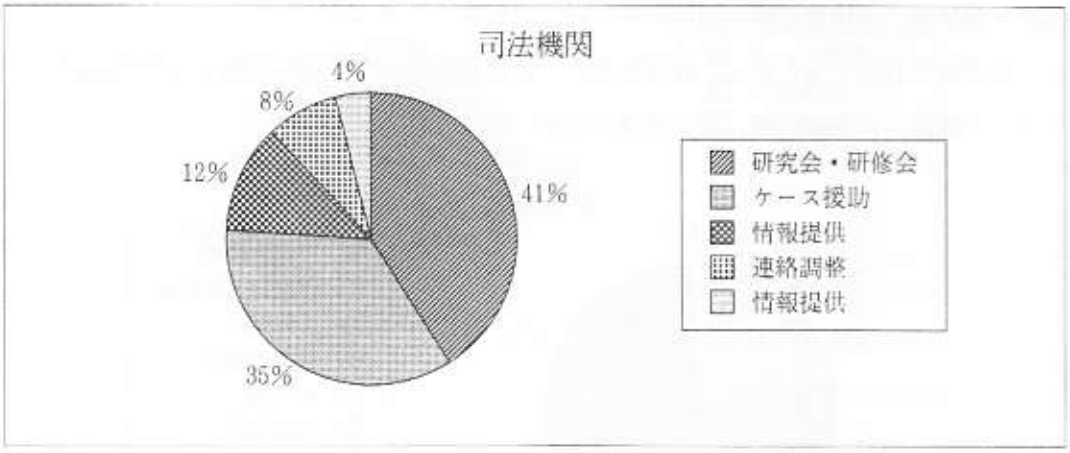
(5) 医療機関に対する技術指導・技術援助

医療機関への技術援助は、①その他、②情報提供、③ケース援助で、全国の地域精神保健福祉の情報や研修に関すること、社会資源に関すること等の問い合わせが主である。ケース援助については、継続カウンセリング、心理査定の依頼等である。



(6) 司法機関に対する技術指導・技術援助

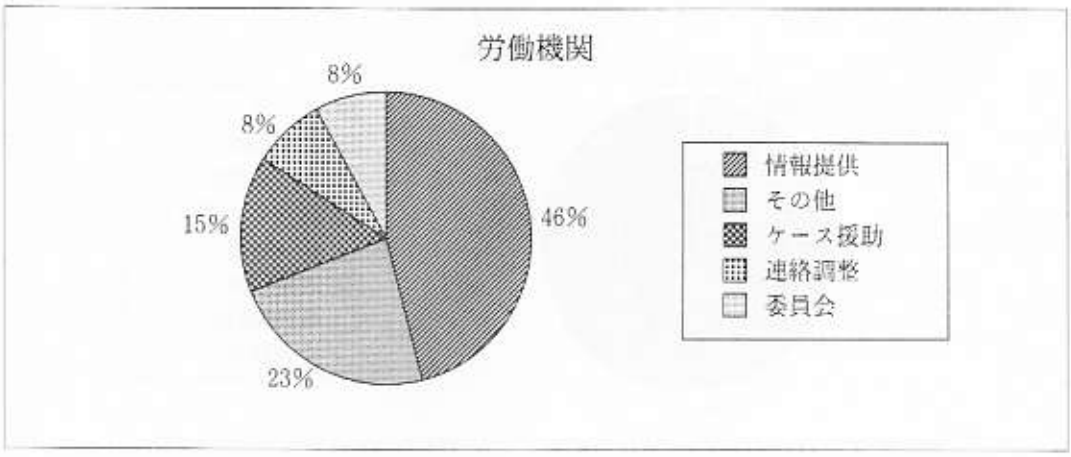
技術援助を行った機関は、警察署、少年サポートセンター、少年鑑別所、県警で、内容は、①研究会、②ケース援助、③情報提供で、こころのケア研修会、警察職員のカウンセリング研修への講師派遣、犯罪被害によるトラウマの対応に於けるケース援助が増加している。



(7) 労働・産業機関に対する技術指導・技術援助

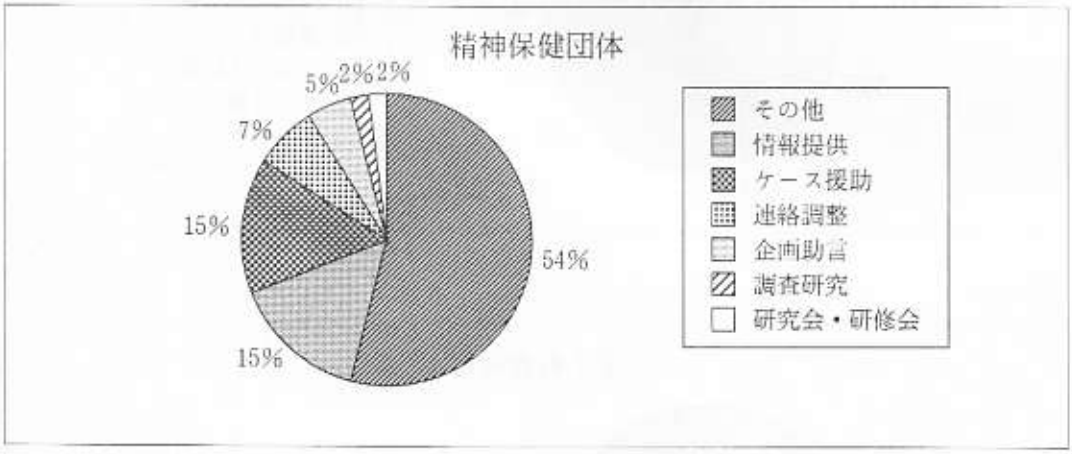
技術援助を行った機関は、各種企業の健康管理室、労働組合、官公庁の人事担当部局で、主な技術援助内容は、①情報提供、②その他、③ケース援助となっている。

又、在宅精神障害者支援のため、ハローワーク、障害者職業センターとの連絡、情報提供を行った。



(8) 各種精神保健団体に対する技術指導・技術援助

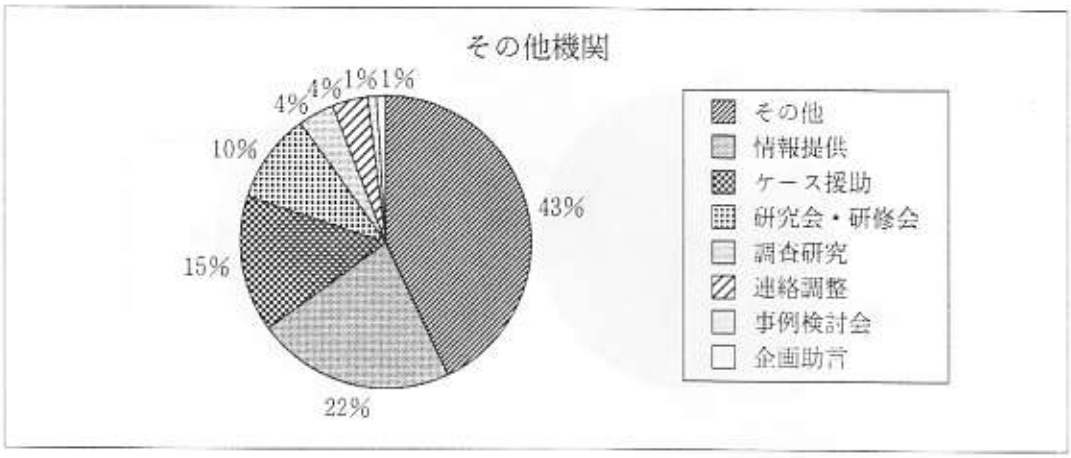
家族会、ボランティア、小規模作業所、当事者会、ＡＡ，ＮＡ，ＤＡＲＣを運営していくために必要な、①情報の提供、②連絡調整、③ケース対応に関する援助、④家族会、作業所が開催する精神保健福祉研修会への講師派遣を行った。

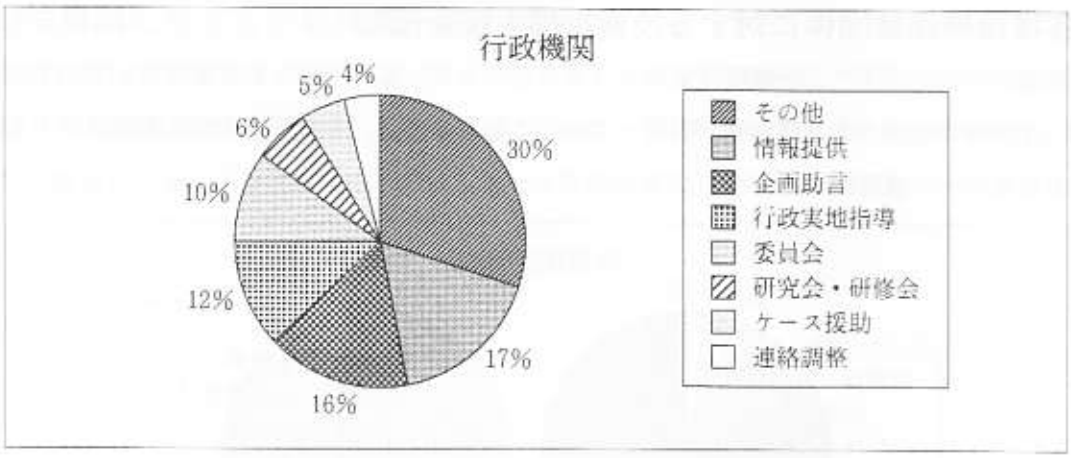


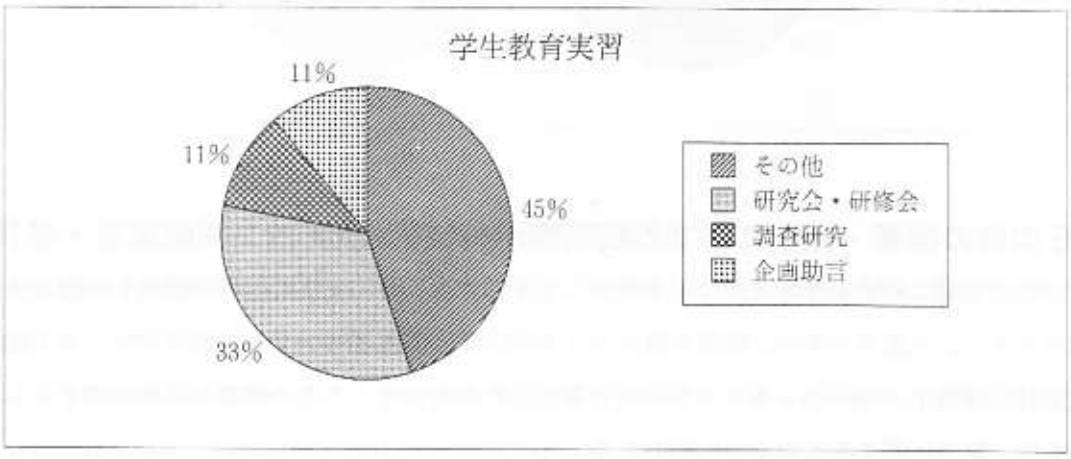
(9) その他の機関・団体に対する技術指導・技術援助

その他の機関に対する技術援助は年々増加してきており、今年度技術指導・援助を実施したのは、女性センター、人権センター、障害者職業センター、身体障害者センター、カウンセリング協会、行政相談員、保護士、ソーシャルワーカー協会等で、その内容はこころの健康の問題に関するものから精神疾患、障害に関するものまで広範である。

又、全国精神保健福祉センターとの連絡調整、情報交換、調査研究の協力も多い。


その他機関
43%
22%
15%
10%
4%
4%
1%
1%
その他
情報提供
ケース援助
研究会・研修会
調査研究
連絡調整
事例検討会
企画助言


行政機関
30%
17%
16%
12%
10%
6%
5%
4%
その他
情報提供
企画助言
行政実地指導
委員会
研究会・研修会
ケース援助
連絡調整


学生教育実習
45%
33%
11%
11%
その他
研究会・研修会
調査研究
企画助言

○ 3. 教　育　研　修 ○

(1) 精神保健福祉研修

(2) 学生実習

(3) 社会復帰指導者研修（デイケア）

教育研修

(1) 精神保健福祉研修

昭和61年5月、県保健予防課分室として開設された当センターは、主に保健機関の職員を中心とした研修会を実施してきた。

平成元年4月1日付けで県の出先機関としてスタートし本格的に活動を開始した。県内における精神保健福祉の向上を図る総合的な技術の中枢機関としての立場から保健関係外の関連諸機関をも対象とした研修を実施している。

平成11年度は、8本の柱で実施した。精神保健福祉専門研修会は、精神障害者保護等支援専門員養成研修の内容をもたせて実施した。精神保健福祉推進のため、関連諸機関との連携も、この教育研修を核として強まってきている。

教育研修、見学、実習等の実施状況は表1のとおりである。

各々の教育研修については、後に詳しく述べる。

表1　平成11年度教育研修実施実績

研修会

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
新任精神保健福祉担当者研修会	平成11年5月31日(月)	市町村福祉・保健、県保健福祉部の関係者	35
思春期関連専門研修会	平成11年7月27日(火) 7月28日(水)	教育、市町村保健、県保健福祉部の関係者	192 95
精神保健事例検討会（教育）	平成11年9月9日(木)	教育	42
児童・青年精神保健福祉研修会	平成11年8月11日(火)	県保健福祉部の関係者、教育	57
アルコール保健福祉研修会	平成11年6月16日(水) 平成12年2月3日(木)	福祉、医療、労働、保健、精神保健福祉団体、その他の関係者	70 41
地域精神保健福祉研修会	平成12年2月22日(火)	福祉、医療、労働、保健、精神保健福祉団体、その他の関係者	166
精神保健福祉専門研修会 （精神保健福祉相談員継続研修会）	平成11年8月5日(木) 8月6日(金) 9月7日(火) 10月13日(水)	精神保健福祉士、精神保健福祉相談員、精神保健福祉相談担当者、その他の関係者	65 60 77 65
老人精神保健福祉研修会	平成11年5月22日(土) 11月20日(土)	福祉、医療、保健、その他の関係者	176 110
社会復帰指導者研修会	平成11年4月～ 平成12年3月 月曜日　年15回	市町村保健、県保健福祉部の関係者	26

計29回　1,277名

① 新任精神保健福祉担当者研修会

精神保健福祉についての概要を理解し、地域における精神保健福祉活動の推進を図った。

日　　程	内　　容
平成11年5月31日(月) 9：40～16：00	講義「センター事業の概要」 こころの健康センター　主幹　村木　顕太郎 「精神保健福祉行政のあらまし」 県障害保健福祉課　主幹　尾西　一夫 「精神保健福祉のあらまし」 こころの健康センター　所長　原田　雅典 「精神保健福祉相談のすすめ方」 こころの健康センター　主幹　久保　早百合 「精神疾患のあらまし」 こころの健康センター　主幹　松崎　まみ 「地域における精神保健福祉活動」 こころの健康センター　主幹　安保　明子

② 思春期関連専門研修会

思春期の子どもを取りまく状況は、学校・家庭だけでは対応できないほど深刻なものとなっており、社会全体の病理としてとらえて対応していかなければ改善されないと思われる。

このような状況にある思春期の子どもに対応する関係者が、よい援助ができるように、知識の向上を図った。

日　　程	内　　容
平成11年7月27日(火) 10：00～15：00	講義「青少年の非行の心理とその対応」 津少年鑑別所（臨床心理士）　堀尾　良弘 「不登校－その多様な支援－」 愛知学院大学教授　池田　豊穂
平成11年7月28日(水) 13：30～15：30	講義「青少年の薬物依存」 西山クリニック院長　西山　仁

③ 精神保健事例検討会（教育）

不登校の事例を通して現代の中・高校生のもつ心の問題を知り、学校保健における精神保健活動のあり方について考えた。

日　　程	内　　容
平成11年9月9日(木) 13：30～16：00	事例名 「不登校－友人関係がうまくいかず不登校になった女生徒－」 事例提供者　県立祖可高等学校養護教諭　中川　育子 助言者　宝積クリニック院長　宝積　己矩子

④ 児童・青年精神保健福祉研修会

カウンセリングの技術について学び、若者の中に起っているいじめ、非行、不登校、自殺、家庭内暴力、ひきこもり等の問題について考え、適切な対応ができるようにすることをめざした。

日　　程	内　　容
平成11年8月11日(火) 10：30～16：00	講義演習「グループワークのすすめ方　―心の居場所づくり―」 日本女子大学教授（精神科医）　増　野　　肇

⑤ アルコール精神保健福祉研修会

アルコール依存症は年々増加の傾向にあり、世界的にも大きな社会問題となっている。またアルコールに起因する問題は多岐にわたり多くの家族崩壊をきたしている。

アルコール依存症について適切な支援ができるよう、関係者が、その病理について正しく理解することが大切である。

アルコール依存症の予防と早期治療をめざして、依存症とその家族を支援していくうえでの方策を考えた。

日　　程	内　　容
平成11年6月16日(水) 14：00～16：00	講義「アルコール依存症の単身者を援助する」 横浜寿福祉センター　所長　村　田　山　夫
平成12年2月3日(木) 14：00～16：00	講義「職場のアルコール対策」 日本銅管診療所長　廣　　尚　典

⑥ 地域精神保健福祉研修会

最近、「人格障害」が注目され、よくとりあげられるようになってきている。

地域においてもこのような人たちが増えてきており、関心も高まっている。

今回、「人格障害」について、正しい知識を習得し、支援について考える機会とした。

日　　程	内　　容
平成12年2月22日(火) 13：00～15：00	講演「人格障害者への対応」 慶応大学・東京国際大学　教授　小此木　啓　吾

⑦ 精神保健福祉専門研修会

精神保健福祉士等、精神保健福祉相談員及び精神保健福祉相談担当者等の資質向上を図ることにより、地域精神保健福祉活動の推進に寄与することを目的とした。

日　　程	内　　容
平成11年8月5日(木) 8月6日(金) 10：00～16：00	講義演習「ケアマネージメント」 埼玉県立精神保健総合センター 診療部専門調査員　野　中　　猛 事例提供者　南勢志摩県民局保健福祉部 保健婦　大　西　真由美 県健康対策課　主査　谷　出　早由美
平成11年9月7日(火) 10：00～15：00	講義「精神障害者の地域生活支援」 社会福祉法人ワーナーホーム　理事長　寺　田　一　郎 「社会的引きこもりとその対応」 佐々木病院　斉　藤　　環
平成11年10月13日(水) 13：30～15：30	講義「精神障害者の就労支援」 日本社会事業大学　教授　寺　谷　隆　子

⑧　老人精神保健福祉研修会

高齢者人口の増加に伴って、痴呆症老人の増加が予測されている。とりわけ、痴呆老人のケアは介護者の身体的、精神的負担は大きい。

一方、地域においては、家族の介護力が低下している現在、施設サービスだけでなく、在宅ケアサービスの充実強化が望まれている。

特有の精神症状や問題行動をおこす痴呆性老人とその家族のニーズにあった適切な支援ができるよう、地域における在宅ケアのあり方について考えた。

日　　程	内　　容
平成11年5月22日(土) 15：00～17：00	講演 座長　いのうえ心身クリニック　院長　井　上　　桂 「在宅生活援助　－老い人とその家族－」 特別養護老人ホーム在宅介護支援センター 報徳園　在宅支援課長　髙　上　　章 特別講演 座長　三重大学医学部神経内科　教授　葛　原　茂　樹 「在宅医療の心　その原理と実際」 仙台往診クリニック　院長　川　島　孝一郎
平成11年11月20日(土) 15：00～17：00	講演 座長　三重こころの健康センター　所長　原　田　雅　典 「うつのもの忘れ　－痴呆のもの忘れ－」 いのうえ心身クリニック　院長　井　上　　桂 特別講演 座長　三重大学医学部精神神経科学教室　教授　岡　崎　祐　士 「異状死体の取り扱い　－三重県の現状と問題点」 三重大学医学部法医学教室　教授　福　永　龍　繁

⑨ その他

センターで主催する教育研修については、別表の通りであるが、また関係機関が実施する専門的な教育研修について、講師派遣の依頼があった。(別表)

教育研修　講師派遣分

教育研修名	実施回数	受講者数
三重大学医学部	2	190
聖十字福祉専門学校	1	80

計　3回　270名

(2) 学生実習

受講者名	実施回数	受講者数
三重大学医学部学生施設体験実習	3	18
三重大学医学部精神科研修医	1	9
三重大学医学部実習	1	1
三重県立看護大学地域専攻	1	30
三重県立看護大学学生施設見学	3	6

計　9回　64名

(3) 社会復帰指導者研修（デイケア）

保健所における社会復帰相談事業にかかわる職員の技術向上を図るため、さまざまな複雑困難な事例を対象に、技術的方法、処置、援助方法等を実習、理論的研修を通じて学び、今後の精神保健業務に幅広く対応できる職員の養成を図ることを目的とし、平成元年より実施している。3ヶ月を1クールとして実施し、今年度の受講生は、1名で平成11年9月～11月に行った。又、本年度は、市町村職員も受講し、全体として、実施回数15回、受講者数26名である。

《精神障害者集団活動（デイケア）》

社会復帰指導者研修会の実習の場として、精神障害者集団活動（デイケア）を平成元年7月より実施している。又、精神保健ボランティア教室、学生の実習の場としても活用されている。実施要領は下記のとおりである。

● 目　的

在宅精神障害者に対し、個別、集団活動を通じて対人関係の改善、社会的習慣の確立、就労意欲の向上など、社会生活の自立を図る。

● 対　象

センター来所者及び保健所、病院などから紹介のあった者で、本人及び保護義務者の希望する者の中から、次によってセンターが決定する。

1．精神障害の回復期にあたって、社会復帰をめざしている者。

2．自宅より通所が可能な者。

3．年齢15歳以上で通所可能な者。

4．定員は25人とする。

● 実施日時

毎週月曜日、午前9時30分～午後3時までとする。

● 期　　間

期間は1年とする。ただし、通所期間を更新する場合は、1年毎に継続申込書を提出する。

● 実施場所

原則として、こころの健康センター内で行う。

● 費　　用

参加費は無料。

ただし交通費及び昼食代、材料費、特別活動に要する費用は本人負担とする。

● 指 導 者

原則として、センターの職員をもって行うが、内容によっては外来講師及び一般協力者の参加を得て行う。

● 主な活動内容

1．集団活動

プログラムの内容は、創作、スポーツ、料理、話し合い、野外活動等メンバーの話し合いにより決定する。

2．個別相談

定期的に個別相談と随時家庭訪問を行う。

3．会　　議

・スタッフミーティング　毎週月曜日（午後3時30分～5時）

・通所決定会議（随時）

【申し込み→DC見学、インテーク面接（家族同伴）→申込書提出→通所決定会議→結果通知】

4．通所申込書、同意書

参加にあたり本人、家族より「通所申込書」・「同意書」（様式1・2）を得る。

5．記　　録

・デイケア業務日誌を作成する。

・個人の活動については「個人参加記録」に記入する。

● 平成11年度実施状況

1．年間実施回数　　42回（週1回）

2．年間参加者数　　延人数　385人

　　実人数　　29人

3．平均1回当り参加者数　　9.2人

4．年令別参加者数

年令 性別	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	計
男	1	1	1	4	1	2	3	2	15
女	0	0	3	4	1	4	1	1	14
計	1	1	4	8	2	6	4	3	29

5．保健所管内別参加者数

桑　名	鈴　鹿	津	久居支所	松　阪	伊　賀	計
1	5	8	7	6	2	29

○ 4. 普　及　啓　発 ○

(1) センターだより「こころの健康」の発行

(2) 所報「平成10年度版こころの健康センター所報」の発行

(3) ポスター・リーフレット・パンフレットの作成

(4) 講演活動

普　及　啓　発

(1)　センターだより「こころの健康」の発行

当センターでは普及啓発活動の一環として、センターだより「こころの健康」を年3回発行している。

平成11年度は№38～40を発行した。各号の内容は以下の通りである。

発行年月日	内　　容	執筆者（敬称略）
<№38> 平成11年 7月15日	<特集：誕生！精神保健福祉士> 巻頭言「これからの精神科ソーシャルワーク」 「精神医療における精神保健福祉士の役割」 「生命を育ぶ町づくり」 ボランティア活動報告記 こころの職人がゆく！ インフォメーション ギャラリーKOKORO こころって何だろう？ 平成11年度研修会のご案内	県立高茶屋病院　藤澤満紀代 久居病院　小栗　誠 地域生活支援センターHANA　神谷　恭子 ベルの会（鈴鹿） サンビュー四日市　山中　淳
<№39> 平成11年 11月15日	<特集：ストレスケアルーム in こころの健康センター> 巻頭言「いま、こころのくにづくり」 ボランティア活動報告記 こころの職人がゆく！ トピックス ギャラリーKOKORO こころって何だろう？ ご案内	こころの健康センター所長　原田　雅典 ウェーブしま（志摩） 北勢病院　奥村　務
<№40> 平成12年 3月15日	<特集：非行少年のこころ> 巻頭言 「ルールを守る意識を育む　－非行防止に向けて－」 「少年鑑別所で出会う少年たち」 ボランティア活動報告記 こころの職人がゆく！ トピックス ギャラリーKOKORO こころって何だろう？ ご案内	津少年鑑別所長　阿部　政孝 津少年鑑別所　法務教官　中野　実 津少年鑑別所　法務技官　山本　愛 三重県精神保健ボランティア連絡協議会 三重障害者職業センター　小島　秀一

(2)　所報「平成10年度版こころの健康センター所報」の発行

平成11年11月に1,000部を発行し、関係諸機関へ配布した。

(3)　ポスター、リーフレット、パンフレットの作成

こころの健康センター業務を県民に周知するためポスターおよびリーフレットを作成し関係機関に配布し掲示依頼を行った。

その他、精神保健に対する知識普及のためのパンフレットを作成した。

ポスター	「サポートしますこころの健康」	1,000部
リーフレット	「サポートしますこころの健康」	3,000部
パンフレット	「ストレスとおつき合い」	900部
	「ストレスこうして防ぐ」	700部
	「女性に多いこころの病」	600部
	「子どもにみられるこころの病気」	600部
	「職場のメンタルヘルス」	2,000部（増刷）

(4) 講演活動

精神保健に関する知識の普及啓発を目的とし、関係諸機関からの要請により実施した。

今年度の講演等の実施回数は53回で、対象者は4,300名であった。講演等の内容は、ライフサイクルにおける心の健康、職場や地域における精神保健、精神障害者の社会復帰など多岐にわたっている。

また、派遣先もその領域が広がり、多方面からの要請が増え、今後ますますセンターへの期待が大きくなっていくことが予想される。

	老人精神保健	思春期	アルコール	社会復帰促進	その他	計
保健所	0	0	0	8	3	11
	0	0	0	152	48	200
福祉機関	1	0	0	4	4	9
	154	0	0	293	142	589
行政機関	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
教育機関	0	2	0	0	3	5
	0	81	0	0	760	841
市町村	3	0	0	2	2	7
	130	0	0	54	60	244
その他	0	1	0	6	14	21
	0	13	0	1,926	487	2,426
計	4	3	0	20	26	53
	284	94	0	2,425	1,497	4,300

※上段　回数
下段　人数

1．保健所

実施年月日	名称	内容	対象者	人数	主催者	派遣者
H11.10.15	精神保健ボランティア教室	こころの病について	受講生	17	紀北保健福祉部	D R
H11.11.16	精神保健福祉講座	精神障害者の理解のために	受講者他	27	北勢県民局	C P
H11.11.26	精神保健福祉ボランティア研修	「精神障害者に関わるために」－自分自身を知ろう	ボランティア他	17	南勢志摩保健福祉部志摩支所	C P
H11.6.18	精神保健ボランティア継続研修	よりよい人間関係づくりのために	ボランティア他	19	伊賀保健福祉部	C P

実施年月日	名　称	内　容	対象者	人数	主催者	派遣者
H11. 7.12	精神保健研修会	現代のこころの病とその対応	市町村保健婦・生活保護担当者	24	松阪保健福祉部	D R
H11. 7.15	精神障害者家族教室	精神障害者との接し方	家族他	17	南勢志摩保健福祉部	C P
H11. 7.21	こころのボランティア教室	心の病について	ボランティア教室受講生	12	紀南保健福祉部	D R
H11. 7.28	家族教室	薬との上手な付き合い方	家族会会員、ボランティア	20	伊賀保健福祉部	D R
H11. 7. 7	家族勉強会	精神障害者の自立支援における家族の役割	家族他	18	桑名保健福祉部	PSW
H11. 9.17	精神保健ボランティア教室	よりよい出会いのために	受講者他	14	紀北保健福祉部	C P
H12. 2. 1	家族教室	こころの健康づくり	家族、ボランティア他	15	津保健福祉部	PSW
計			200			

2. 福　祉

実施年月日	件　数	内　容	対象者	人数	主催者	派遣者
H11.11. 9	テーマ別介護講座	心のリフレッシューサイコドラマを通して－	受講者	24	長寿社会推進センター	C P
H11.12. 8	三重県ホームヘルパー協議会研修会	痴呆症、精神障害者への接し方	ホームヘルパー	154	ホームヘルパー協会	D R
H11. 6.15	テーマ別介護講座	心のリフレッシューサイコドラマを通して－	受講者	21	長寿社会推進センター	C P
H11. 6.21	精神保健ボランティアスクール	心を病む人への理解	受講生他	35	一志郡内社会福祉	C P
H11. 6.30	生保関係機関連携体制充実事業	精神障害者と地域の関わり	民生委員・児童委員	200	中勢福祉事務所	D R
H11. 7.23	精神保健ボランティアスクール	事例をみながら、精神分裂病をもう一度振り返ってみよう	受講生他	31	一志郡内社会福祉	D R
H11. 9. 2	精神保健福祉ボランティアスクール	地域における精神保健活動	受講生他	27	鈴鹿市社会福祉協議会	PSW
H12. 3.22	テーマ別介護講座	心のリフレッシューサイコドラマを通して－	受講者	17	長寿社会推進センター	C P
計			509			

3．教　育

実施年月日	件　数	内　容	対象者	人数	主催者	派遣者
H11.10. 28	松阪市学校保健研修会	学校における「こころの居場所づくり」	養護教諭他	21	松阪市学校保健会	ＰＳＷ
H11.11. 12	校内研修会	思春期の対応について	校内教諭	60	松阪商業高校	Ｃ　Ｐ
H11. 8. 20	小中学校長・幼稚園長研修会	教職員のメンタルヘルスを考える	小中学校長・幼稚園長	35	津市教育委員会	Ｄ　Ｒ
H12. 1. 17	教師カウンセリング研修	教職員のメンタルヘルスについて	教職員	25	桑名市立立教小学校	Ｄ　Ｒ
H12. 2. 16	学校保健研修会	心と健康	生徒、PTA 代表、教員、保健委員	700	四日市市立内部中学	Ｄ　Ｒ
計			841			

4．市町村

実施年月日	件　数	内　容	対象者	人数	主催者	派遣者
H11.10. 26	ヘルスアップ教室	女性のメンタルヘルス～いきいきと過ごすために～	受講生	30	伊勢市保健センター	Ｄ　Ｒ
H11. 5. 24	母子保健推進員研修会	妊婦、乳幼児を持つ母親の心理	母子推進員	30	津市	ＰＨＮ
H11. 6. 23	民生委員・児童委員定例研修会	精神障害者を地域で支えるために	民生委員・児童委員	36	青山町	Ｄ　Ｒ
H11. 9. 16	介護担当者研修会	痴呆性疾患の理解から	ホームヘルパー・在宅介護支援センター職員・保健婦他	30	御浜町	ＰＨＮ
H11. 9. 8	ボランティアスクール	こころの病を持つ人に接するとき	受講者	18	青山町健康管理センター	Ｃ　Ｐ
H12. 1. 25	精神保健研修会	痴呆疾患の理解から対象者への関わり方	町職員、民生委員、保健推進員、一般住民	50	紀宝町	ＰＨＮ
H12. 2. 21	高齢者対話員研修会	高齢者の病気～精神疾患について～	対話員、在宅介護協力相談員	50	海山町	Ｄ　Ｒ
計			244			

5．その他

実施年月日	件　数	内　　容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H11. 10. 18	女性被害捜査専科教養	性犯罪被害者への援助のためのかかわり	受講生他	12	県警	C　P
H11. 10. 22	精神保健福祉全国大会	シンポジウム「私たちの現在」当事者とパートナー	一般	1,800	厚生省他	PHN
H11. 10. 27	少年相談担当研修	少年の心理Ⅱ	少年相談担当警察官・少年サポートセンター担当者	13	県警	C　P
H11. 11. 15	健康管理講習会	職場のメンタルヘルス	職員	20	津家庭裁判所	D　R
H11. 11. 24	家族懇談会	精神科疾患について	精神障害者家族他	19	ときの会	D　R
H11. 12. 10	精神衛生講話	職場のメンタルヘルス	管理職	105	富士電機三重工場	D　R
H11. 12. 13	出前トーク	心と健康	リーダー	16	県広報課	D　R
H11. 12. 15	出前トーク	心と健康	町民	20	県広報課	D　R
H11. 12. 16	出前トーク	心と健康	町民	100	県広報課	D　R
H11. 5. 19	衛生管理者・衛生推進者研修会	活気ある職場づくり－サイコドラマの体験をとおして－	衛生管理者・衛生推進者	19	県職員課	C　P
H11. 5. 19	ふるさと会総会	当事者にかかわる家族の役割	ふるさと会会員他	17	ふるさと会	PHN
H11. 5. 27	四日市人権養護委員協議会総会	精神障害者の理解と対応について	人権養護委員	30	四日市人権擁護委員協議会	D　R
H11. 7. 21	被害者対策研修	犯罪被害者の心理	地域署被害者対策担当	18	県警	D　R
H11. 7. 29	中堅現業職員研修会	在宅障害者への援助・相談を考える	県市福祉職員他	33	医務福祉課	PSW
H12. 2. 25	身体知的障害者相談員等研修会	こころの健康センター事業説明	相談員他	80	三重県身体障害者連合会	C　P
H12. 2. 26	三重県社会福祉士会研修会	サイコドラマ	社会福祉士	15	三重県社会福祉士会	C　P
H12. 2. 3	人権ネットワーク会議	こころの健康センターの活動と心の相談	各委員	20	県人権センター	D　R
H12. 2. 7	出前トーク	心と健康	入居者	27	県広報課	D　R
H12. 3. 15	例会研修	経営者とストレス	経営者	20	中小企業経営者協議会	D　R
H12. 3. 8	メンタルヘルス講習会	職場のメンタルヘルス	管理者	15	津地方裁判所	D　R
H12. 3. 9	職員研修会	「精神障害を理解するために」思春期、青年期を中心に	鑑別所、刑務所等職員	27	津少年鑑別所	D　R
計			2,426			

○ 5. 精神保健福祉相談 ○

(1) 精神保健福祉相談
（こころの健康相談・こころのテレフォン相談）

(2) 思春期講座

精神保健福祉相談

(1) 精神保健福祉相談（こころの健康相談・こころのテレフォン相談）

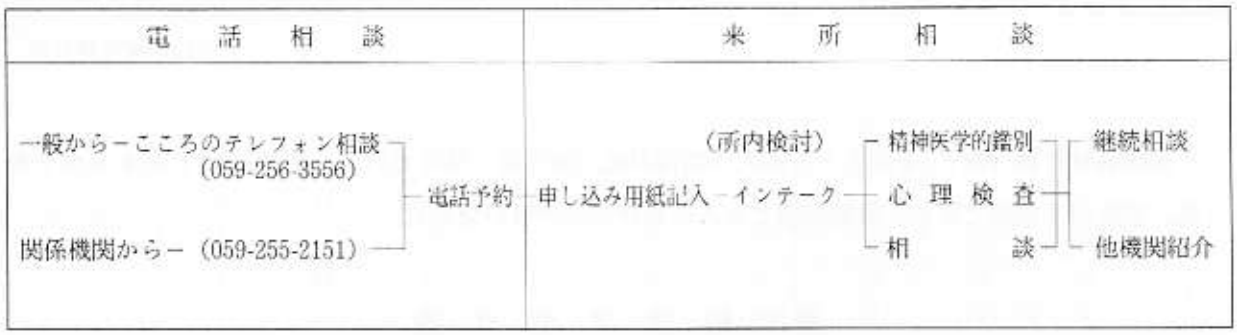
精神保健福祉相談事業は、「こころの健康相談」（来所相談）と「こころのテレフォン相談」（電話相談）に分けられる。

「こころの健康相談」は、思春期・老年期・アルコールのような特定相談も含め、毎週火・木を原則として相談に応じてきた。しかし相談者数の急増にともなって他の曜日にも随時予約をとり対応してきた。平成11年度の相談員は、医師２名（所長、精神科医１名）、保健婦（精神保健相談員）２名、精神科ソーシャルワーカー１名、心理技術者２名の計７名であるが、６月から週１回心理技術者が１名増加している。

「こころのテレフォン相談」は、毎週月～金曜日の午前10時～午後４時まで、専用電話にて相談に応じている。その対応は専任の嘱託相談員（看護職）２名があたっている。

相談の流れは、図１に示してある。この基本的な考え方は所内でそれぞれの専門職種が互いに検討を行い、それぞれの相談内容に適した方法がとれるようになっている。

図１　相　談　の　流　れ



平成11年度における相談の概要は以下のとおりである。

相談件数は、表１のとおりで、前年度と比べると、来所相談が127%、電話相談が105%で、新規件数も167%、131%と共に増加している。全体の相談件数は109%の増加となっている。

表１　平成11年度　相談件数

		件　数	構成比（%）
こころの健康相談		1,576（　243）	22.5
こころのテレフォン相談		5,444（　952）	77.5
再掲	思春期	690（　259）	9.8
	老年期	431（　107）	6.1
	酒害	23（　19）	0.3
計		7,020（1,195）	100.0

※（　）内は新規件数再掲

最近5年間の年度別相談件数の推移は表2のとおりである。来所相談は、今年度よりストレス対策事業が始まり、相談室、相談員が増加し、昨年に対し127%の増加になっている。テレフォン相談は、相談専用電話2本、相談員2名の現体制で対応可能な限界になってきており、105%と増加率は鈍ってきている。

表2　精神保健福祉相談件数（年度別）

		平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
こころの健康相談（来所相談）		1,073 (96)	955 (91)	1,089 (170)	1,243 (155)	1,576 (243)
こころのテレフォン相談		2,946 (488)	3,448 (675)	4,340 (728)	5,187 (723)	5,444 (952)
再掲	思春期	345 (140)	395 (164)	462 (175)	412 (183)	690 (259)
	老年期	199 (34)	209 (56)	185 (52)	198 (57)	431 (107)
	アルコール	5 (5)	13 (13)	21 (14)	21 (16)	23 (19)
計		4,019 (584)	4,403 (766)	5,429 (898)	6,430 (878)	7,020 (1,195)

※（　）内は新規件数再掲

相談者別件数（表3）をみると、本人の割合が88.2%と高くなっている。新規件数では本人が6割弱、家族が4割弱であり、継続相談で本人の割合が高い事が分かる。

表3　相談者別件数

	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比（%）
本人	1,358 (171)	4,836 (533)	6,194 (704)	88.2 (58.9)
家族	206 (68)	541 (387)	747 (455)	10.7 (38.1)
その他	12 (4)	67 (32)	79 (36)	1.1 (3.0)
計	1,576 (243)	5,444 (952)	7,020 (1,195)	100.0 (100.0)

※（　）内は新規件数で内数

表4　年代別、性別　相談件数

区　分	こころの健康相談			こころのテレフォン相談			合　　計			総相談件数に対する比率(%)
年　齢	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
0～5	0 (0)	1 (1)	1 (1)	5 (5)	2 (0)	7 (5)	5 (5)	3 (1)	8 (6)	0.1
6～12	3 (3)	5 (0)	8 (3)	21 (18)	18 (16)	39 (34)	24 (18)	23 (16)	47 (34)	0.7
13～15	49 (9)	100 (14)	149 (23)	39 (32)	31 (22)	70 (54)	88 (41)	131 (36)	219 (77)	3.1
16～18	54 (8)	23 (8)	77 (16)	53 (36)	47 (34)	100 (70)	107 (44)	70 (42)	177 (86)	2.5
児童計	**106** **(20)**	**129** **(23)**	**235** **(43)**	**118** **(91)**	**98** **(72)**	**216** **(163)**	**224** **(111)**	**227** **(95)**	**451** **(206)**	**6.4**
19～22	46 (13)	101 (11)	147 (24)	71 (38)	76 (34)	147 (72)	117 (51)	177 (45)	194 (96)	2.8
23～29	101 (18)	116 (22)	217 (40)	131 (87)	156 (102)	289 (189)	232 (105)	272 (124)	504 (229)	7.2
30～39	155 (16)	218 (24)	373 (40)	709 (64)	1,087 (142)	1,796 (206)	864 (80)	1,305 (166)	2,169 (246)	30.9
40～49	170 (10)	131 (24)	301 (34)	153 (35)	2,238 (75)	2,391 (110)	323 (45)	2,369 (99)	2,692 (144)	38.3
50～59	73 (7)	122 (25)	195 (32)	32 (26)	190 (69)	222 (95)	105 (33)	312 (94)	417 (127)	5.9
60～64	21 (2)	13 (8)	34 (10)	15 (7)	90 (18)	105 (25)	36 (9)	212 (26)	248 (35)	3.5
65～69	3 (3)	24 (5)	27 (8)	22 (6)	152 (10)	174 (16)	25 (9)	176 (15)	201 (24)	2.9
70～	3 (2)	44 (10)	47 (12)	10 (9)	34 (27)	44 (36)	13 (11)	78 (37)	91 (48)	1.3
成人計	**572** **(71)**	**769** **(129)**	**1,341** **(200)**	**1,143** **(272)**	**4,023** **(477)**	**5,166** **(749)**	**1,715** **(343)**	**4,791** **(606)**	**6,506** **(949)**	**92.7**
不　明	0 (0)	0 (0)	0 (0)	22 (16)	40 (24)	62 (40)	22 (16)	41 (25)	63 (41)	0.9
合　計	**678** **(91)**	**898** **(152)**	**1,576** **(243)**	**1,283** **(379)**	**4,161** **(573)**	**5,444** **(952)**	**1,961** **(470)**	**5,059** **(725)**	**7,020** **(1,195)**	**100.0**

※（　）内は新規件数再掲

次に、年代別、性別相談件数（表4）をみてみると、年代別には来所相談・テレフォン相談ともに30代、40代が多いのは、例年と同様で、30代、40代で、67%を占めている。

性別には、来所相談、テレフォン相談共に女性が多く、特にテレフォン相談では、30代、40代の女性が圧倒的に多い。これは、電話常習者が数名いるために多くなっている。今年度の変化としては、来所相談で、思春期の件数が増加していることと、ストレス相談を開始したため、50代～70代の女性の相談件数が増加していることである。

表5　保健所管内別相談件数

保健所	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比（%）
桑名	53（ 9）	151（73）	204（ 82）	2.9
四日市	111（20）	188（126）	299（ 146）	4.3
鈴鹿	200（29）	1,255（97）	1,455（ 126）	20.7
津	388（53）	779（186）	1,167（ 239）	16.6
久居	369（43）	184（81）	553（ 124）	7.9
松阪	170（25）	2,093（79）	2,263（ 104）	32.2
伊勢	63（21）	278（80）	341（ 101）	4.9
志摩	11（ 6）	66（33）	77（ 39）	1.1
上野	172（26）	91（60）	263（ 86）	3.8
尾鷲	11（ 4）	34（12）	45（ 16）	0.6
熊野	2（ 2）	13（10）	15（ 12）	0.2
県外	26（ 5）	213（46）	239（ 51）	3.4
不明	0（ 0）	99（69）	99（ 69）	1.4
計	1,576（243）	5,444（952）	7,020（1,195）	100.0

※（　）内は新規件数内数

次に、保健所管内別相談件数（表5）をみてみると、来所相談では津・久居が多く、この2保健所管内で全体の48.0%を占める。次に鈴鹿・松阪・上野と続く。志摩・紀北・紀南は少なく、地理的な要因は大きいと思われる。テレフォン相談は、松阪保健所管内が多く、全体の38.4%を占める。電話常習者が数名いるため、多くなっている。次に鈴鹿・津と続くのは、昨年と同様である。又、県外からの相談者も昨年同様増加している。新規件数をみてみると、来所相談では、桑名・志摩・紀北・紀南が少なく地域差がみられるが、テレフォン相談では、紀北、紀南を除いては、地域差は少なくなってきており、昨年と同様の傾向がみられる。

相談内容別件数については、こころのテレフォン相談、来所相談別に、図２、図３に示す。

図２　テレフォン相談内容別件数

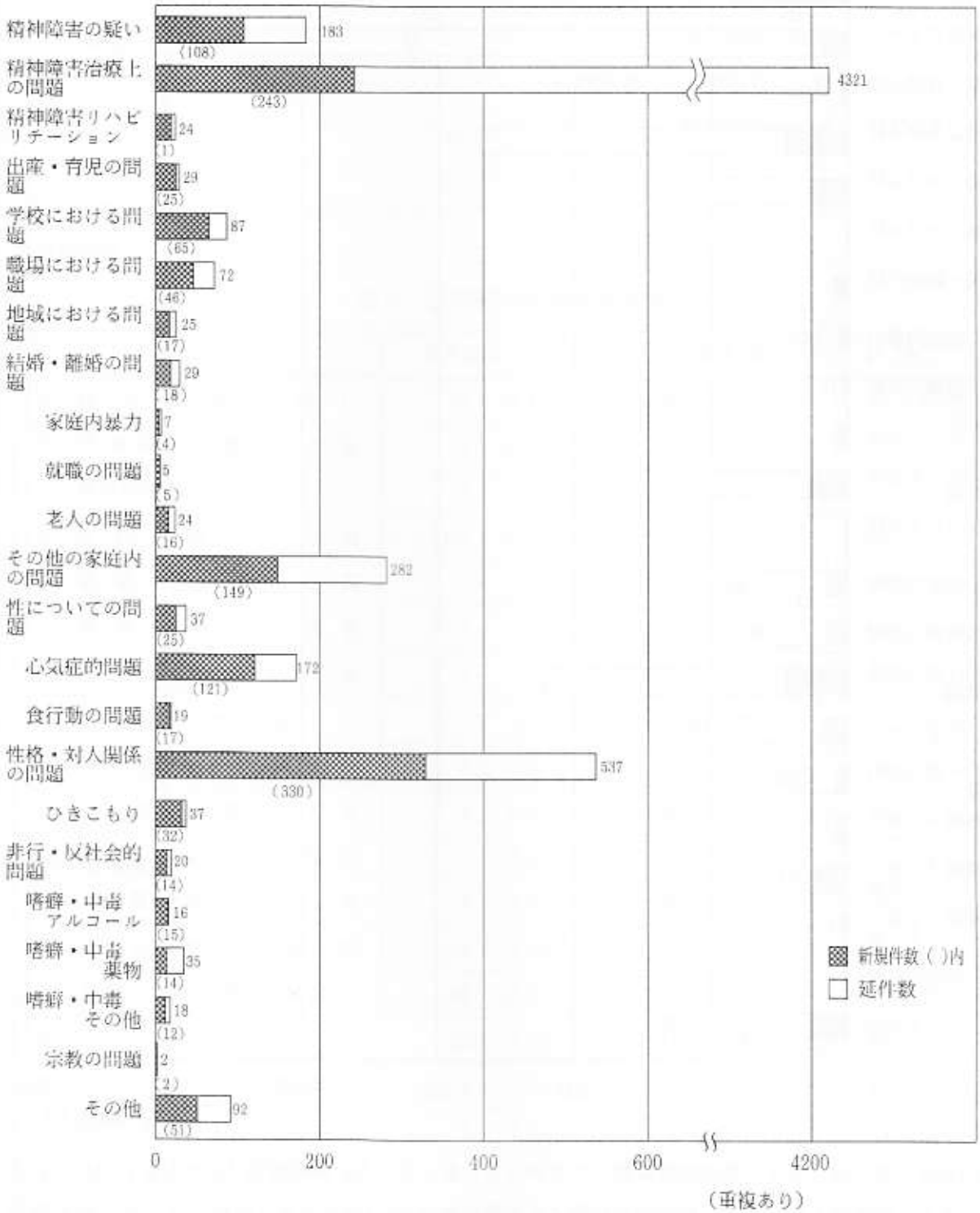
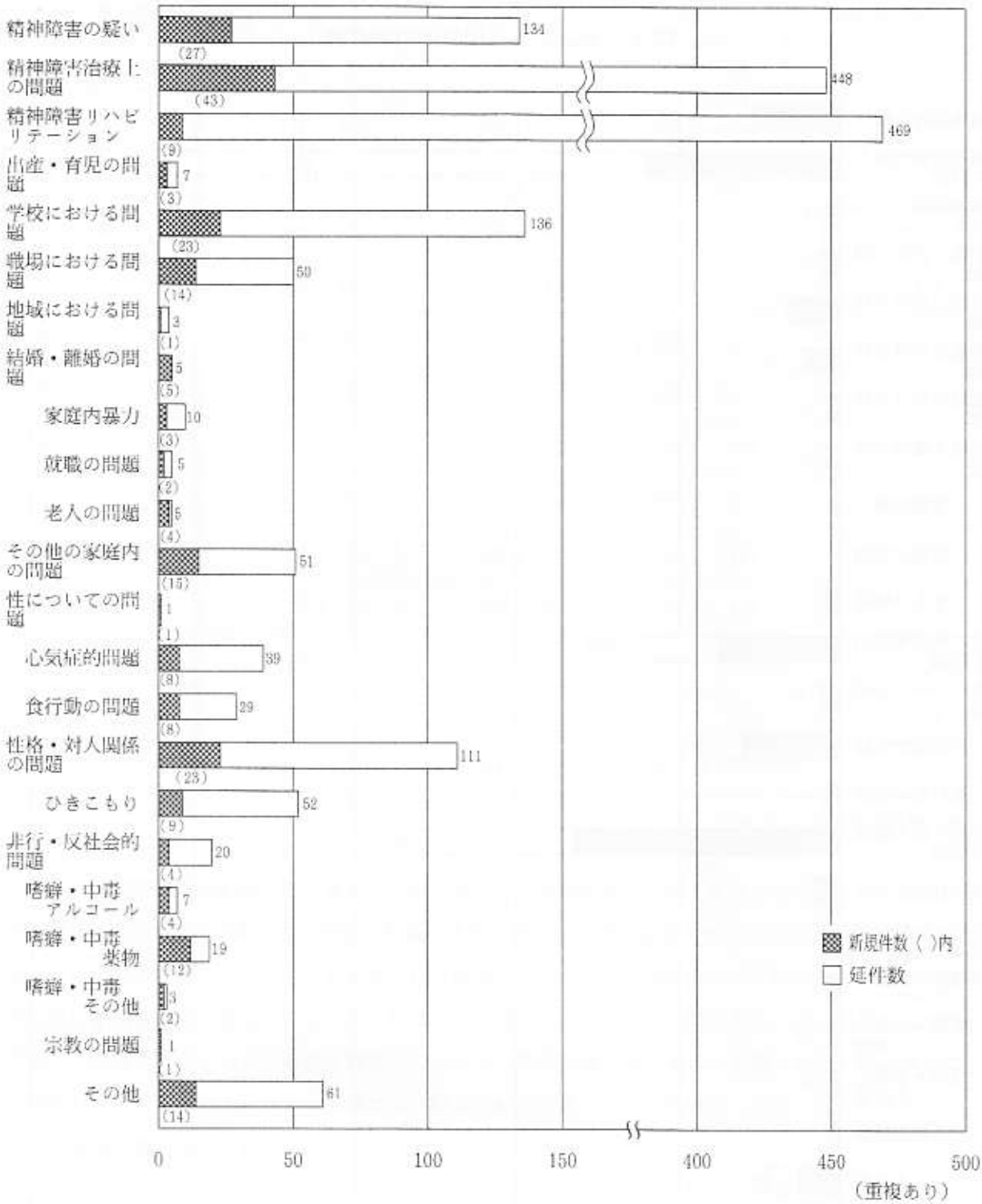


図3　来所相談内容別件数



内容を大きく分けると、精神障害に関したもの（A、B、C）と、適応障害（D～U）に分けることができる。昨年度と比べると、精神障害に関する相談件数は101.1%とあまり変わらないが、適応障害の相談件数が214.5%で増加している。

テレフォン相談で今年度増加の著しい内容は、職場における問題10.3倍、非行・反社会的問題6.7倍、嗜癖・中毒4倍である。

来所相談では、非行・反社会的問題6.7倍、嗜癖・中毒4.1倍、ひきこもり2.7倍、学校における問題2.3倍である。

又、本年度より、診療を行っており、11年度の診療件数、心理検査の件数は下記のとおりである。

診　療	実人員	30人	
	延べ件数	195件	
心理検査	知能検査	1件	
	性格検査	20件	計21件

<特定専門相談>

思春期相談

表6　思春期内容別相談件数

	来所相談（%）	テレフォン相談（%）	計（%）
A 精神障害の疑い	45（12.1）	40（12.6）	85（12.3）
B 精神障害治療上の問題	74（19.8）	78（24.6）	152（22.0）
C 精神障害リハビリテーション	11（2.9）	0（0.0）	11（1.6）
E 学校における問題	133（35.7）	65（20.5）	198（28.7）
F 職場における問題	1（0.8）	8（2.5）	9（1.6）
G 地域における問題	0	3（0.9）	3（0.4）
H 結婚・離婚の問題	0	1（0.3）	1（0.1）
I 家庭内暴力	1（0.3）	4（1.3）	5（0.7）
J 就職の問題	3（0.8）	2（0.6）	5（0.7）
L その他の家庭内の問題	2（0.5）	43（13.6）	45（6.5）
M 性についての問題	1（0.3）	15（4.7）	16（2.3）
N 心気症的問題	4（1.1）	32（10.1）	36（5.2）
O 食行動の問題	18（4.8）	7（3.2）	25（3.6）
P 性格・対人関係の問題	49（13.1）	126（39.7）	175（25.4）
Q ひきこもり	26（7.0）	14（4.4）	40（5.8）
R 非行・反社会的問題	1（0.3）	15（4.7）	16（2.3）
S 嗜癖・中毒	6（1.6）	17（5.4）	23（3.3）
T 宗教の問題	0	1（0.3）	1（0.1）
U その他	10（2.7）	16（5.0）	26（3.8）
総件数	373（100.0）	317（100.0）	690（100.0）

（重複あり）

思春期は、中学生から大学卒業までの年齢（13歳～22歳）を考えている。表6に思春期の相談内容別件数を示した。

来所相談は、373件あり、来所相談全件数の23.7%を占めている。内容別にみると、学校における問題が最も多く、133件で、次に精神障害治療上の問題、性格・対人関係の問題、精神障害の疑いと続いている。本年度は適応障害の増加が著しく、不登校等の継続相談が増加している。

テレフォン相談は、317件でテレフォン相談全件数の5.8%である。内容別にみると性格、対人関係の問題、精神障害治療上の問題が多く、学校における問題、精神障害の疑い、その他の家庭内の問題と続く。来所相談、テレフォン相談共に、適応障害が精神障害に関することより多くなっている。

昨年に比べ、増加が著しいのは、嗜癖・中毒と学校における問題、性格・対人関係の問題となっている。

老年期相談

表7　老年期内容別相談件数

	来所相談（%）	テレフォン相談（%）	計（%）
A 精神障害の疑い	10（ 9.3）	29（ 9.0）	39（ 9.0）
B 精神障害治療上の問題	52（ 48.1）	220（ 68.1）	272（ 63.1）
F 職場における問題	0	2（ 0.6）	2（ 0.5）
G 地域における問題	1（ 0.9）	4（ 1.2）	5（ 1.2）
K 老人の問題	3（ 2.8）	18（ 5.6）	21（ 4.9）
L その他の家庭内の問題	9（ 8.3）	32（ 7.9）	41（ 9.5）
N 心気症的問題	6（ 5.6）	21（ 6.5）	27（ 6.3）
O 食行動の問題	0	1（ 0.3）	1（ 0.2）
P 性格・対人関係の問題	4（ 3.7）	33（ 10.2）	37（ 8.6）
R 反社会的問題	18（ 16.7）	0	18（ 4.2）
S 嗜癖・中毒	1（ 0.9）	8（ 2.5）	9（ 2.1）
U その他	7（ 6.5）	9（ 2.8）	16（ 3.7）
総件数	108（100.0）	323（100.0）	431（100.0）

60歳以上の老年期の相談は、今年度は431件であり、全件数の6.1%である。内容別件数は、表7に示してあるように、精神障害治療上の問題が来所相談、テレフォン相談共に多く、次にその他の家庭内の問題、精神障害の疑い、性格・対人関係の問題と続く。老年期では精神障害に関する相談が72.1%と昨年同様多くなっている。

アルコール相談

アルコール相談の件数は、今年度は23件で昨年と同様で全件数の0.3%である。アルコールに関する相談はアルコール専門病棟をもつ県立病院が隣接市にあることや、各保健所で相談を行っていることにより、例年通り、当センターにもちこまれることは少ないと思われる。

(2) 思春期講座

思春期は子どもから大人への過渡期であるといわれ、過渡期であるがゆえに精神的な不安定さを生ずる。殊に現代社会のような社会変動が著しい状況においては、思春期が不安定さを特徴とする。そのためさまざまな心の問題が生じやすくなる。

登校拒否、家庭内暴力、非行など、思春期の心の問題が具体的な行動上の問題となって現れ、マスコミを始めとし社会的な関心が高まっている。

また、拒食症、心身症なども増加の傾向にあるが、特にひきこもりの増加が著しい。

よく知られているように社会変動は文化的経済的な急激な変化だけでなく社会の基盤にある構造そのものもかわりつつある。このような時代的な流れの中で、家族の役割も不安定なものにならざるを得ない。

思春期の不安定さを安定化させる役割が家族の中にあると考えた時、家族の役割が不安定になることは、思春期の心の健康を考えていくうえで、重大な危惧を生ずる。

このような視点から今回の思春期講座は、この時期の子供をもつ家族を対象に、5回の連続講座をもち、各分野の立場から「思春期とは」の講義と話し合いをもった。その中で思春期における心の問題と家族の役割を見直すこととした。

《平成11年度思春期講座の概要》

● 目　的

思春期は人間の一生の中でも身体的、社会的、心理的にも変動の著しい時期で、この時期は、さまざまな心の揺れを持ち不安定になりやすい。時には、不登校、家庭内暴力、心身症などの思春期における心の問題が生じる。

この講座では、思春期の子どもをもつ家族に対して「思春期とは」の理解を深め、この時期の子どもを支えるための知識・理解を深める。

● 実施主体　三重県こころの健康センター

● 期　間　平成11年11月11日～平成12年3月9日
　毎月一回（第2木曜日）　午後1時30分～午後3時30分

● 場　所　三重県こころの健康センター

● 対 象 者　思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方

● 内　容　講義　グループワーク

● 定　員　20名

● 受 講 料　無料

● 申込方法および期日
　別紙申込書により、三重県こころの健康センターへ申し込む
　締切り10月23日（但し定員になり次第締切る）

平成11年度　思春期講座プログラム

日　　時	内容および講師
<第1回> 平成11年 11月11日	思春期の心と身体を理解する 宝積クリニック院長（精神科医）　宝　積　己矩子
<第2回> 12月9日	家族の役割を考える くわな心理相談室（臨床心理士）　鈴　木　　誠
<第3回> 平成12年 1月13日	学校生活の中での子ども 高田学苑　学校カウンセラー　藤　牧　　恵
<第4回> 2月10日	グループワーク 思春期の体験を通して子どもを理解する こころの健康センター　主幹（臨床心理士）　久　保　早百合
<第5回> 3月9日	グループワーク 子どもの自立をめぐって こころの健康センター　主幹（臨床心理士）　久　保　早百合

思春期講座

<第1回>

宝積クリニックの宝積院長が、「思春期を考える」というテーマで話をされた。「思春期を考える」ためには、安定した子ども時代をどう過ごしてきたかが大切である。また「思春期」は揺れ動く時期でありそのような時期に『そうしてもよい』といってくれる人が必要であり、それが家族（父・母）である。この時期に親として大切なことは健康であること、自信をもつこと、子どもを信頼することなどの内容であった。

<第2回>

くわな心理相談室、臨床心理士の鈴木先生は、家族の役割を考えるとき家族自身が『私』は何ができるかを自分に問う。そして限界を設定すること等話された。そして先生の相談の経験から、「家族物語」を作ってみてはどうかといわれた。

<第3回>

高田中・高等学校　学校カウンセラーの藤牧先生は、ドロシー・ロー・ノルトの：子は親の鏡：からいくつかの文を引用された。その後学校カウンセラーとはどのような立場のものなのか、子どもたちとまた家族とどう関わっていくのか、話をされた。ドロシー・ロー・ノルトの引用文は、最近親が見失ってきている。<子どもに対する無限の愛>について改めて感じさせられた。

＜第４回＞

サイコドラマの形式で、期の子どもを理解するために、親自身が思春期の時代を体験することにした。思春期の子どもと親自身が思春期を重ね合わせ、楽しい気持になった方もあれば、葛藤的な気持になった方もあった。いずれにしても今後、子どもたちの心に役立つという好意的な評価であった。

＜第５回＞

以前、思春期講座を終了しているOB会員より、体験談を話してもらった。その後参加者を３グループに分けてそれぞれ自由に討議の場をもった。OB会員も各グループに加わった。講義の内容を振り返りながら子どもの問題について積極的に考えようとする姿勢がうかがわれたり、自分の子どもの様子を話し、どの様に対応すればよいのか知恵を出しあうなどわきあいあいとすすめられた。このことはこの講座の意図する、親自身が問題を考え、親自身姿勢を自ら考えるという目的の出発点であると思われる。

またこの講座の終了後毎月１回開かれている、思春期OB会への参加希望者は殆どであり今後のOB会の活動が期待される。

思春期講座の経過

参加者は35名であり、そのうち18名が個別相談を新たに希望され、相談継続中が４名であった。参加者地域を保健所管内別にみると津（久居含）18名、松阪５名、上野４名、鈴鹿３名、四日市、伊勢（志摩含）が、各２名、桑名１名であった。個別相談を参加者の63パーセントが希望され、子どもの対応についての内容が殆どであり、親が子どもを理解しようとする気迫が強く感じられた。

内容別では、昨年と同じ傾向であり、不登校、接触障害、閉じこもり、家庭内暴力など、また、子どもの反抗などであった。

○ 6. 組　織　育　成 ○

(1) 家族会・リーダー研修会

(2) 精神保健ボランティア教室

(3) 思春期アドバイザー養成講座

(4) 断酒会・アルコールネットワーク

組　織　育　成

(1)　家族会・リーダー研修会

①　家族会

〈三重県精神障害者家族会連合会（三家連）〉

三家連は発足以来30年が過ぎようとしている。会員の高齢化や会員の確保などの問題を抱えながらも、地域においては、保健、医療、福祉等関係機関の連携強化に加えて、精神保健ボランティアの支援を得て、精神障害者の社会復帰など様々な活動への取り組みがなされている。

センターは家族会の育成とともに、こうした関係領域拡大と連携の強化を目指して指導援助を行った。

三家連の運営に関する指導助言はもとより、例年開催される、三家連精神保健福祉大会の企画、運営や三家連誌「あゆみ」の編集のほか、三家連が主催する「家族会リーダー研修会」への協力、三家連役員と所長の懇談会などを行っている。

〈精神障害者地域家族会〉

県内の地域家族会は現在、病院家族会５ヶ所、地域家族会12ヶ所が活動している。平成８年までは地域家族会は８ヶ所であったが志摩、紀北、紀南管内に家族会が結成され全県下の拠点が網羅された。地域家族会の援助は、主に保健所において開催されている各家族会の定例総会への参加や、会独自で計画された研修への講師派遣等行ってきた。

	回（件）数	対象者延人数
家　族　会	22	552

平成10年にかけて家族会が中心となり14ヶ所の共同作業所が開設され、地域の受け皿作りへの積極的な取り組みが行われてきており、センターとしては（保健所とともに）作業所を訪問し、処遇の個別相談や、情報提供、各関係機関との連絡調整の援助を行ってきているが、各家族会とも役員の高齢化が進み、会の運営に悩みが生じてきている。

②　リーダー研修会

保健所を拠点とした地域家族会活動の推進を図るため、平成２年度から表記の研修を開催している。今までは地域家族会を主体としていたが、病院家族会、社会復帰関連施設職員も含め、精神障害者の社会復帰体制の整備を促進することを目標に研修を行った。

	研　修　内　容	参加者数および対象者
平成11年 10月13日 13:30～15:30	講演「精神に障害がある人（精神障害者）と共にすすめる就労支援活動」 社会福祉法人　JHC 板橋会 日本社会事業大学　　寺　谷　隆　子	34名 共同作業所所長、指導員、家族会会員、社会復帰施設指導員等

(2) 精神保健ボランティア教室

● 目　　的

精神障害者の治療や、社会復帰に対する考え方は、従来の入院治療中心から、地域精神医療へと次第に視点を移してきている。

このような状況のもとでは、社会資源をいかに有効に活用するかが精神障害者の社会復帰を促進していくうえで重要な要素となる。特に人的資源について考えるなら、地域に根ざした生活の場（共同作業所や回復者クラブ、共同住居等）が志向されている現在の状況のもとでは、専門家集団による力だけでは、その目的は達しえない。むしろ広く、人的資源を求めていくことで、これを支え、推し進めていくことができるものと期待されている。

そこで、このような人材を精神保健ボランティアとして、育成していくことを目的として、ボランティア教室を開催するものとする。

● 主　　催　　三重県こころの健康センター

● 日　　時　　平成11年8月17日（火）～平成11年12月2日（木）
毎月第1木曜日、第3火曜日　　午後1時30分～4時00分

● 会　　場　　三重県こころの健康センター

● 対　　象　　精神保健やボランティア活動に関心があり、受講後ボランティアとして活動する意志のある方。

● 定　　員　　30人

● 費　　用　　受講料は無料とする。

● 募集方法　　一般公募

● 申し込み方法及び期日

直接、電話でこころの健康センターに申し込む。

◎受講申し込み受付期間　　7月1日（木）～7月23日（金）

但し、申し込みが定員を上回る場合は抽選により受講者を決定する。

精神保健ボランティア教室実施状況

(ア) 内容（プログラム）及び受講者

実施日		内容		参加数
第1回	8月17日(火)	開講式 オリエンテーション 自己紹介	講義「ボランティア活動とは？」 三重県社会福祉協議会地域福祉部副部長 三重県ボランティアセンター長 大形　治	29
第2回	9月2日(木)	心理トレーニング「よりよい出会いのために」 三重県こころの健康センター主幹 （臨床心理士）　久保　早百合		29
第3回	9月14日(火)	講義「心の病について」 三重県こころの健康センター主幹 （精神科医）　松崎　まみ		29
第4回	10月7日(木)	講義「地域における精神保健福祉活動について」 三重県こころの健康センター主幹 （保健婦）　安保　明子	当事者からのメッセージ	27
第5回	10月19日(火)	座談会 精神障害者を支えて…… －家族会、作業所職員の願い－	施設見学実習の説明	28
第6回	11月4日(木)	施設見学実習 「精神障害者共同（小規模）作業所・保健所デイケアなど」		31
第7回	11月16日(火)	座談会 施設見学実習をして…… －体験実習の情報交換と精神障害者に対する新たな思いについて－		24
第8回	12月2日(木)	精神保健ボランティアグループの活動紹介 座談会　今考えよう！　私たちのできること、「これからの活動」 閉講式		26
			延べ参加者数	223

精神保健ボランティア教室修了者の活動状況

当センターの精神保健ボランティア教室修了者の中から「至心会」という精神保健ボランティアグループが平成2年1月に結成され、平成4年10月には「三重てのひら」と改称しボランティア活動を続けている。

当初は、こころの健康センター事業への協力、地域家族会への支援が中心の活動であったが、平成5年度は、精神障害者共同（小規模）作業所「工房T&T」開所に向けての資金作り、家屋の提供など積極的なボランティア活動を展開し開所に至らせた。またそのほかに平成7年1月発生した阪神大震災では、救援物資を集めて送る等のボランティア活動も熱心に行われた。このような活動の功績が認められ平成7年12月5日の第28回精神保健三重県大会において三重県精神保健協議会会長表彰を受けた。

現在、会員は男女あわせて83名で桑名から志摩までの広い地域にわたっており、主に地域の共同作業や保健所のデイケア等で活動をしている。

（具体的な活動内容）

- 精神障害者の家族会活動への協力
- 共同作業所への支援
- こころの健康センターや保健所の実施している社会復帰事業への協力
- 精神保健福祉に関する各種研修会への参加及び協力
- 総会、役員会、例会の開催
- 会報「三重てのひら」の発行
- 広報、啓発活動
- ボランティア資金獲得活動（バザー）
- 他のボランティアグループとの交流

三重県精神保健ボランティア連絡協議会

今年度は県内の７つの精神保健ボランティアグループが集まり、精神保健ボランティア相互の情報交換、資質向上等を目的に三重県精神保健ボランティア連絡協議会を発足した。

平成11年度活動内容

- 冊　　子　　「こころのなかま」（A4　59ページ）の発行と関係機関への配布
- 研 修 会　　平成12年１月25日（水）10：00～15：00

　　午前　講演「地域に根ざすネットワーク活動

　　～精神障害者のノーマライゼーションをめざして～」

　　講師　ソーシャルハウスさかい　中　本　明　子

　　午後　交流会「精神保健ボランティアについて語り合おう」

精神保健ボランティア支援状況

	回数	延べ人数
精神保健ボランティア	41	259

(3)　思春期アドバイザー養成講座

思春期講座の参加者の中から、６年前に、有志が中心となりOB会が結成された。親自身が、自分たちの姿勢を変えていく必要性を感じ、それを具体的に行っていこうとした。このOB会が発展し思春期アドバイザー養成講座となった。現在、毎月１回の例会と、夏に研修会を行っている。例会では、思春期の子どもに対してどのような対応をしていけばよいのか、またどのようにしたらできるかを会員相互に相談しあっている。これらの知識や経験をいかし、地域で同じような悩みを持つ親に対してよき相談相手となっている会員も増えている。今後もそのような家族に対して身近に相談にのれるようにする。

≪平成11年度　思春期アドバイザー養成講座の概要≫

● 目　　的

思春期の子どもを取りまく状況は、学校・家庭だけでは対応できないほど深刻なものとなっており、社会全体の病理としてとらえていかなければ改善されないと思われる。

このような状況にある思春期の子どもをもつ家族に対して、地域の中で良き支援者となれるようにする。

● 実施主体

三重県こころの健康センター

● 場　　所

三重県久居市明神町2501－1（☎ 059－255－2151）

県久居庁舎　2Ｆ　25会議室

● 受講対象者

思春期講座の終了者でアドバイザー養成講座を受講希望の者

● 内　　容

日　時	内　　容	参加人数
平成11年 7月27日(火) 10：00 ～15：00	講義「青少年の非行の心理とその対応」 津少年鑑別所（臨床心理士）　堀　尾　良　弘 「不登校　－その多様な支援－」 愛知学院大学教授（臨床心理士）　池　田　豊　應	24名
平成11年 7月28日(水) 13：30 ～15：30	講義「青年の薬物依存」 西山クリニック院長　西　山　　仁	12名

計　　36名

◎ グループワーク

毎月第4木曜日　14：00～16：00

11回　参加者数　延べ113人

思春期アドバイザー養成講座の経過

例会は平成11年4月から平成12年3月まで、8月と12月を除き実施した。毎月10名から11名の参加者があり、研修会は延べ36名が参加した。例会では、自分の子どもの対応についての悩みを話しあったり、克服した会員から体験話を聞いたり、講習会などに参加した会員から情報をえたり、地域で相談を受けている方への支援について相談したりなど、多様な内容であった。

(4) 断酒会・アルコールネットワーク

三重断酒新生会は昭和47年に結成され、アルコール依存症の自助組織として独自の活動を行っている。6ブロック15支部で各々例会（月1～4回）を開催している。

アルコールネットワークは、断酒会、医療機関、相談機関等から成る連携組織で、啓発活動などを行っている。

この他県内では、AA（Alcoholics Anonymous）グループ活動も、津市で週1回開催されている。

家族支援としては、「家族例会」が本部・中勢・上野・南勢地域で、アラノングループが桑名市で開催され、それぞれの地域に根ざした活動が行われている。

AC（Adult Child）サポートとしては、治療グループと自助グループの両要素をもつグループ「Wings」が津市で月1回開催、体験交流や勉強会を行っている。

こころの健康センターでは、断酒会との共催による研修やセミナーの開催、アルコールネットワーク活動等を中心とした協力支援を行っている。

平成11年度の協力支援状況は次の通りである。

日　時	内　　容	参　加　者
平成11年 6月16日(水) 14：00 ～16：00	＜アルコール精神保健研修会＞ ・「アルコール依存症の単身者を援助する」 講師　横浜寿福祉センター所長　村　田　由　夫	関係職員・断酒会員・家族　等 70名
平成12年 2月3日(木) 14：00 ～16：00	＜アルコール精神保健研修会＞ ・連続講座「職場のアルコール対策」 講師　日本鋼管（NKK）鶴見保健センター所長　廣　　尚　典	関係職員・断酒会員・家族　等 41名
アルコールネットワーク　7回		

○　7．精神障害者福祉推進事業　○

(1)　精神障害者就労相談

(2)　精神障害者自立援助

(3)　社会復帰関連施設支援

精神障害者福祉推進事業

精神保健の施策は、昭和62年及び平成５年の法律改正により、精神障害者の人権に配慮した適正な精神医療の確保や、社会復帰の促進を図るため様々な措置が講じられ、平成５年12月に障害者基本法が成立し精神障害者が基本法の対象として明確に位置づけられ、これまでの保健医療施策に加え、福祉施策の充実を図ることが求められることとなった。

さらに平成７年５月には精神障害者の福祉施策や地域精神保健福祉施策の充実を図ること等を目的に「精神保健法」から「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に改正され、精神障害者の自立と社会参加のための援助という福祉の要素が位置づけられた。こうした状況を踏まえ、こころの健康センターでは、精神障害者福祉推進事業として１）**精神障害者就労相談**、２）**精神障害者自立支援**、３）**社会復帰関連施設支援**の事業を行ってきた。

(1) 精神障害者就労相談

昨年度に掲載した就労前の実習体験（仮称…グループアルバイト）は丸２年を経過した。「週１回、２時間程度、できるだけ来客の少ない所で、いつ休むかしれない」、という身勝手な条件を理解していただいた「ミスタージョン株式会社」久居店。

職域は店側の配慮で比較的来客の少ない「工作機械、金物売り場」の商品補充作業を考えていただいた。何百種類という品物の中から同じ品物を見つけ同一個所へ掛ける作業、ノルマはないが、来客者から品物の場所を聞かれたり、商品の専門的な用途を聞かれることもしばしばであった。

最初の１年間はジョブコーチとしてセンター職員がバックについたが、今はメンバーのみで参加している。継続は力なりと言われるとおり、他商品の陳列、値札貼り、金物の切り売りもできるようになってきている。

このアルバイトも平穏に流れてきたのではない。彼らは一度センターに来所してからアルバイトに出かけているが、働きに出かけるふりをして喫茶店に行っていたり、一人のメンバーが休むともう一人も行きづらくなったりというハプニングもおこしてくれている。黙って休むことは相手に迷惑をかけることは彼らも承知の上であり、職員は注意をしながら内心ではさぼることもできるようになった彼らと評価している自分に気づかされる今日この頃である。さて、このアルバイトを今後適当なメンバーが現れたときスムーズに入れるよう普遍化しておく必要性を感じ手引き書を作成した。

就労の手引

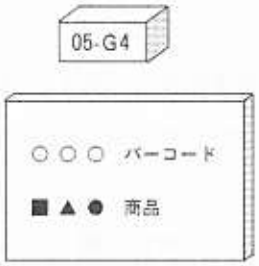
服　　装：来客に不快な印象を与えない服装
　　Gパンはだめ。襟付きの綿シャツ
　　ひげを剃り整髪をする
仕　　事：商品を売場に並べる
時　　給：700円（15日〆通帳に25日振込）
就労時間：毎週金曜日13：00～15：00
　　休憩はなし

アルバイトの手続

1．アルバイト雇用契約書
2．アルバイト採用報告書
3．通勤手当支給申請書
4．給与所得者の扶養控除申請書
5．身上書（履歴書）入院歴などの記入は必要なし。卒業学校、就労歴だけでよい。

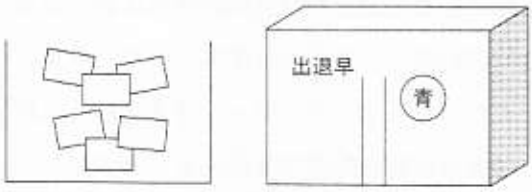
実　務

1．釘、ノコギリ等商品№2のついた金物類の箱を探す
2．商品陳列棚へ移動
①小箱の数字が近い物、同じ物を選ぶ
②バーコード表示の末尾と同じ商品を確認し展示。



＊客が誤った場所へ商品をかけてあることがありバーコード表札と同一か確認すること。

3．職員と出会ったら「お疲れさま、こんにちは」と挨拶する。
4．2階の事務所職員、店長らに挨拶し事務所入り口のタイムカードを



①自分のタイムカードを探す
②出社のボタンを押し
③タイムカードを上から切る
④青ランプでOK

この手引き書を作成する中で、デイケアで行っているプログラムの中にも手引き書を作成することで、今まで消極的だったメンバーが取り組めることができることがわかり、「カラオケ操作の手引き」「当番の役割の手引き」「陶芸の手引き」などを作成した。

この手引きは、異動する県職員の身分を考えれば当然作成しておくべきものであり、新しく入ってくる職員の手引き書にもなりうるものである。

平成12年3月31日現在

	回（件）数	対象者延人数
グループアルバイト	48	84

《精神障害者就労相談（グループアルバイト…仮称）実施要領》

● 目　　的

精神障害者にとって現代社会の就労環境は厳しく、また就労できたとしてもストレスを高め失敗体験を繰り返すケースが多い。デイケアや作業所では適応しているケースでも、一人で社会に飛び込む体験はかなりの勇気と自己管理が必要であり、仲間とともに関係者が支え、安心して就労体験が出来る機会を設ける。

また、メンバーが実社会に触れる機会のみならず、このアルバイトを通し、雇用主はじめ関係者の理解を得る機会とする。

● 対　　象

在宅の精神障害者で、同一のデイケア、作業所に通所している２人以上のメンバー。

● 実施主体

三重県こころの健康センター

● 協力機関

ボランティア、関係企業

● 実施内容

①実働は最高でも１日２～３時間とし、心身の負担とならない程度とする。

②メンバーは２人以上ボランティア、センター職員で構成する。

デイケア、作業所のメンバーがこの事業に参加する時、所属職員１名の参加を原則とする。

③アルバイト料は雇用主との協議とする。

(2)　精神障害者自立援助

平成４年度より毎週金曜日はデイケアメンバーにフリースペースとしてデイルームを開放している。当初は、１、２名の利用であったが平成８年頃より利用者も増え、当事者会へと発展してきた。

現在、当事者会は月１回定例会を開催しており、メンバーが主体的に活動できるよう情報提供、助言等を行っている。

フリースペース利用状況

回数	延べ利用者数	平均参加者数	内容
50	204	4.1	カラオケ、将棋、雑談

当事者会（オレンジハートクラブ）支援状況

回数	延べ参加者	平均参加者数	内容
11	68	6.2	ミィーティング、昼食会、カラオケ、精神保健福祉全国大会シンポジウム、等

(3) 社会復帰関連施設支援

平成11年度に開設された施設は、作業所２ヶ所、通所授産施設２ヶ所、生活訓練施設１ヶ所、福祉ホーム１ヶ所、地域生活支援センター１ヶ所の計７ヶ所であった。

	回　　数	延べ人数
社会復帰関連施設支援	24	218

（再掲）訪問実施状況

施設名	回　　数	延べ人数
四季の里	1	1
工房T＆T	2	25
夢の郷	3	23
太陽作業所	1	100
南紀さんさんワーク	1	50
計	8	199

○ 8. 調　査・研　究 ○

調　査・研　究

保健所社会復帰相談事業及び共同作業所利用者の生活実態と社会復帰コード調査

県内11保健所及び支所とこころの健康センターデイケア利用者89名、小規模作業所13ヵ所の通所生95名にアンケート調査を行ったところ約８割が、家族（主として両親）と共に暮す20代～40代の人々であった。

彼らの活動状況、希望する援助等の調査結果の集計と彼らの直接の声を掲載し、報告書を作成した。

○ 9. ストレス対策事業 ○

ストレス対策事業

ストレスを避けて通れない現代社会において、すべてのライフサイクルを通じてメンタルヘルスが重要課題となっているなか、社会的支援が急務となっている。

そこで県民ひとりひとりが不安や緊張を経験しながらも著しい不適応な状態に陥ることなく、心の健康を維持向上させ、また、適応障害、心的外傷後ストレス障害などの境界域の心の病を持つ人々への社会的支援体制を確立するため、ストレス対策事業を実施する。

事業内容

(1) **リラックス体験**

(2) **ストレス相談**

(3) **診療**（ストレス関連疾患、来所ケースの中での相談の補助的手段として投薬治療の必要なケースに診療を行う）

の3本柱である。

(1) **リラックス体験**<実施日時：火・金 10～16時、場所：久居庁舎4階ストレスケア・ルーム、無料>

ボディーソニック（リクライニングの椅子）に横になり、癒しの音楽の低重音がリラックスを導く中、α波の脳波をとりストレス解消のアドバイスを行う。

平成11年9月開始	
対象者	170名

(2) **ストレス相談**<実施日時：水　10～16時、場所：久居庁舎4階ストレスケア・ルーム、無料>

ストレス相談の流れ：ストレスケア・ダイヤル（059－255－0184）にて予約

↓

面接、問診票記入

↓

心理テスト

↓

リラックス体験

↓

面接、助言　＊ストレス相談の内容により通所に切り替え専門の職員が相談に当たる。

平成11年9月開始	
対象者	39名

(3) **診療**<実施日時：随時、場所：こころの健康センター、診療は有料>

保健診療の出来る体制を開始する。ストレス相談の方以外の来所相談ケースにも対応を開始する。

平成11年4月開始	
対象者	203名

このストレスケア・ルームは、アロマ、ヒーリングミュージックを流し、より多くの人が、気軽にセンターを利用し、リラックスしながら相談が出来るような部屋にした。利用者は日中時間がとりやすい40～50代の女性の利用が多く、更年期の悩み、家族、友人関係での悩みなど幅広い相談が持ち込まれている。ボディソニックは手段であって目的ではなく、あくまでストレスへの対応が早期に出来るようにと考えており、状況に応じ専門職員の相談につなげていける体制をとっている。

○ 10. 薬物相談ネットワーク事業 ○

薬物相談ネットワーク事業

薬物依存症や、中毒性精神病に陥った患者の治療方法は必ずしも確立されておらず、また、医療体制も未整備であるなど、ニーズに対応できない状況にあり、本人、家族のために、速やかな対応が求められている。

また、依存症に陥ると、一旦乱用を止めることができても、再び乱用してしまう割合が高い状況があり、乱用者のための総合的な社会復帰対策が必要である。

このことから、当センターでは、平成11年度より、関係機関と連携を図りながら、薬物依存から立ち直りを目指している者の具体的処遇を検討し、社会復帰を支援するため、以下の事業を実施している。

1．特定相談事業

・こころの電話相談件数　35件

・来所相談　19件

2．関係機関職員研修　出席者数100名

・平成11年7月28日

「青少年の薬物依存」

西山クリニック院長　西　山　　仁　先生

3．薬物問題関係機関連絡会議

・平成11年4月20日　出席者数　9名

「相談の現状と課題、望まれる体制づくりについて」

ダルク、ナラノン、相談担当者との話し合い

・平成12年2月18日　出席者数　64名

「薬物乱用対策における関係機関の連携のあり方」

国立下総療養所　平　井　慎　治　先生

「三重ダルクの現状」

三重ダルク代表　市　川　岳　仁　氏

4．関連する社会資源の整備　援助回数　23回

三重ダルクの運営に関すること、ケースの援助、調整、ダルク啓発の支援、NAミーティングの県下への普及等の援助を行った。

5．普及啓発

・講師派遣　5回

県民総決起集会

中学校

・リーフレット作成

「薬物問題でお悩みの家族の方へ」　1,000部

・寄稿

ダルクニュースレター

6．調査研究　1回

調査項目　薬物対策事業の実施状況

調査対象　全国精神保健福祉センター

薬物対策事業実施状況調査

1．目　的

第三次覚醒剤乱用期の終息に向け、薬物乱用防止5か年戦略が策定され、総合的な薬物対策を推進する体制がのぞまれている。

その中で、精神保健福祉センターに、薬物依存症者の回復を支援するネットワークを構築するための役割が期待されている。

本県においても、平成11年度より薬物相談ネットワーク事業を推進しているが、今後の事業展開に資するため、全国の実施状況と社会資源の現状について把握する。

2．対　象

全国精神保健福祉センター ―― 54か所　　都道府県立　49か所
政令市立　　5か所

3．回収率

―― 都道府県立　96%（44都道府県）
―― 政令市立　100%（5市）

4．内　容

1）貴センターに於ける薬物対策についてお尋ねします。

ア．現在薬物対策事業を実施している

北海道　秋田県　福島県　山形県　仙台市　栃木県　東京都（3センター）　神奈川県
埼玉県　千葉県　長野県　富山県　岐阜県　京都市　奈良県　大阪府　広島県　岡山県
山口県　高知県　福岡県　佐賀県　宮崎県　熊本県　長崎県　沖縄県　三重県

イ．現在は実施していないが今後実施の予定がある

12年度実施の計画あり ―― 11か所
盛岡中央　群馬県　宮城県　石川県　愛知県　滋賀県　兵庫県　島根県　広島市　徳島県
鹿児島県
13年度実施の計画あり …… 1か所　山梨県
開始時期未定　　…… 1か所　京都府
※香川県 …… センター業務として機能アップ

ウ．現在実施していないし今後実施の予定もない

新潟県　川崎市　福井県　静岡県　和歌山県　愛媛県
実施しない理由 …… スタッフ体制で不可能等
鳥取県（協議の方向）　青森県（未定）

エ．過去に実施していたが現在は実施していない ―― 0か所

2）実施している事業内容

ア．薬物専門相談事業

・来所相談

北海道　秋田県　仙台市　神奈川県　東京都（3センター）　宮城県　埼玉県　千葉県　長野県　富山県　岐阜県　大阪府　広島県　岡山県　山口県　宮崎県　熊本県　長崎県　沖縄県　三重県

・電話相談

北海道　秋田県　山形県　仙台市　東京都（3センター）　宮城県　千葉県　富山県　岐阜県　大阪府　広島県　山口県　宮崎県　熊本県　長崎県　沖縄県　三重県

イ．デイケア等の集団療法 …… 0

ウ．家族教室

福島県　栃木県　神奈川県　東京都（3センター）　埼玉県　千葉県　高知県　福岡県

エ．自助グループへの技術援助（自助的活動による施設）

神奈川県　東京都中央　千葉県　大阪府　宮崎県　三重県

支援先　　ＮＡ、ＤＡＲＣ、女性ハウス

支援内容　　運営委員会参加

イベントの広報・企画

作業所補助金等の事務手続きの支援

オ．関係機関職員の研修

秋田県　福島県　山形県　宮城県　仙台市　栃木県　埼玉県　東京都（3センター）　千葉県　神奈川県　長野県　富山県　岐阜県　奈良県　大阪府　広島県　山口県　高知県　佐賀県　宮崎県　熊本県　三重県

カ．広報・啓発

福島県　埼玉県　三重県

ビデオ購入　指導者手引き書購入、家族相談用リーフレット作成

薬物フォーラム

学校等関係機関への講師派遣

キ．その他

栃木県　千葉県　京都府　山口県　長崎県　熊本県　福岡県　東京都

薬物問題の子をもつ母親グループ開催

司法機関との連携

保健所、作業所のミーティングへの技術援助

作業所、運営委員会への参加

調査研究　内容＝・依存症の受け皿としての診療所の相談、対応の現状

・保健所の薬物相談の実態把握

来所相談実施状況

開催頻度：月1回

窓　　口：殆どの所でセンター内実施

交通の便等を考え、センター外で実施している ……1か所

保健所に窓口を設けて実施 ……1か所

相談担当者：センター職員「常勤医、心理職、保健婦等」

嘱託医

大学職員

相談形態：薬物専門相談

一般相談の中で対応

アルコール関連相談の中で対応

家族グループミーティング

開催頻度：月1回、週1回

所要時間：2時間、1：30分

講　　師：ダルク、家族会員

家族教室

開催頻度：週1回、月2回、月1回「開催頻度は人口規模により異なる」

1コース4回シリーズ、8回シリーズ

プログラム：薬物依存症の基礎知識

家族の対応と回復

薬物依存からの回復「体験者メッセージ」

関係機関のとりくみ

ＳＳＴ

回復に必要な社会資源について

薬物依存の法律問題

薬物依存が周りの人に与える影響

家族そして自分自身について

家族、本人の心理

家族にとっての回復とは

回復の道のりとセルフヘルプグループ

家族からみた本人の状態をチェックしてみましょう

あなた自身の健康は守られていますか

普段どんな接し方をしていますか

利用できる機関や施設、グループを知りましょう

フリープログラム（参加者の希望を聞くｅｘ見学にでかける等）

特別講座……薬物依存症者をめぐる法律

講　　師：医師、心理職、ＰＳＷ、保健婦

ダルク、ダルク家族会員、ナラノン

警察、保護観察所、弁護士

関係者会議

名　　称

薬物連絡協議会

薬物関連問題研究会

薬物問題実務担当者会議

会議内容

情報交換会、研修会、事例検討会、包括的処遇体制の検討　援助の基本

教育研修

形　　態

事例検討会　スーパーバイザーを招いて

アディクションセミナー、アディクション研究会

薬物依存フォーラム

精神保健福祉特別研修

思春期研修会

モデル保健所において、危機介入、処遇等の研修会

薬物問題研究会・応用講座

テーマ

薬物の現状について

共依存について

女性と依存問題

依存問題と家族

クスリについて

麻薬Ｇメンの活動

公的機関の援助

薬物から子供を守るネットワークについて

薬物と法律

薬物乱用・依存にまつわる相談を考える

覚醒剤使用者の更正についての取り組み

薬物依存症の治療と再発

司法の見方と医療の見方

パネルディスカッション「覚醒剤関連問題の取り組みに求められるもの」

薬物乱用と心身への有害性・危険性

薬物依存症の理解

薬物依存者の体験とダルクの活動

覚醒剤事犯と司法

薬物乱用者に対する各機関の役割

薬物乱用対策の中での精神保健福祉センターの役割

Ⅲ. 資　　料　　編

三重県こころの健康センター図書目録

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	アリエティ分裂病入門	近藤喬一 訳	星和書店
2	アルコール依存症	斎藤学 共編	有斐閣
3	アルコール依存の社会病理	大橋薫 編	星和書店
4	アルコール症（J. フォート著）	大森正英 訳	東京大学出版会
5	異常と正常	秋元波留夫 著	東京大学出版会
6	遺伝精神医学	坪井孝幸 著	金剛出版
7	医療ソーシャルワーカー論	児島美都子 著	ミネルヴァ書房
8	岩波国語辞典	西尾実 著	岩波書店
9	狼に育てられた子（J. A. Lジング著）	中野善達 訳	福村出版
10	カウンセリングと人間性	河合隼雄 著	創元社
11	カウンセリングの実際問題	河合隼雄 著	誠信書房
12	覚醒剤中毒	山下格 著	金剛出版
13	仮面デプレッションのすべて	筒井末春 著	新興医学出版社
14	健康と福祉（厚生行政百問百答）	厚生省 監修	厚生問題研究会
15	現代精神分析　1	小此木啓吾 著	誠信書房
16	現代精神分析　2	小此木啓吾 著	誠信書房
17	講座　家族精神医学　1	加藤正明 共編	弘文堂
18	講座　家族精神医学　2	加藤正明 共編	弘文堂
19	講座　家族精神医学　3	加藤正明 共編	弘文堂
20	講座　家族精神医学　4	加藤正明 共編	弘文堂
21	講座　日本の老人　1　老人の精神医学と心理学	金子仁郎 共編	垣内出版
22	講座　日本の老人　2　老人の福祉と社会保障	岡村重雄 共編	垣内出版
23	講座　日本の老人　3　老人と家族の社会学	那須宗一 共編	垣内出版
24	行動と脳	今村護郎 著	東京大学出版会
25	最新児童精神医学	高木隆郎 監訳	ルガール社
26	自己と他者（R. D レイン著）	志貴春彦 共訳	みすず書房
27	実務衛生行政六法61年版	厚生省 監修	新日本法規
28	児童精神衛生マニュアル	松本和雄 共著	日本文化科学社
29	児童の発達と行動	加藤正明 共訳	医学書院

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
30	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫著	医学書院
31	社会精神医学の実際　1	加藤伸勝編	医学書院
32	社会精神医学の実際　2	佐藤亮三編	医学書院
33	社会精神医学の実際　3	逸見武光編	医学書院
34	社会精神医学の実際　4	加藤伸勝編	医学書院
35	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木正義編	診断と治療社
36	小児メディカルケアシリーズ　6　小児のMBD	上村菊朗共著	医歯薬出版
37	小児メディカルケアシリーズ　7　登校拒否症	若林貞一郎著	医歯薬出版
38	小児メディカルケアシリーズ　8　小児のてんかん	福山幸夫著	医歯薬出版
39	小児メディカルケアシリーズ　13　小児の糖尿病	田中美郷著	医歯薬出版
40	小児メディカルケアシリーズ　14　自閉症	村田豊久著	医歯薬出版
41	小児メディカルケアシリーズ　15　小児の心身症	河野友信著	医歯薬出版
42	小児メディカルケアシリーズ　20　夜尿症	三好邦雄著	医歯薬出版
43	職場の精神衛生	春原千秋共編	医学書院
44	事例検討と看護実戦	外口玉子編	看護事例検討会
45	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子編	バオバブ社
46	心身の力動的発達		岩崎学術出版社
47	新精神保健法（法令、通知、資料）	厚生省監修	中央法規出版
48	心理療法の実際	河合隼雄編	誠信書房
49	人類遺伝入門	大倉興司著	医学書院
50	睡眠障害	上田英雄編	南江堂
51	睡眠障害	山口成良共著	新興医学出版社
52	ステッドマン医学大辞典	……	メディカルビュー
53	増補版　精神医学辞典	加藤正明共編	弘文堂
54	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭編	岩崎学術出版社
55	精神医学と社会療法	秋元波留夫著	医学書院
56	精神医療の実際	菱山珠夫共編	金原出版
57	精神衛生と法的問題	高宮澄夫共訳	牧野出版
58	精神衛生と保健活動	中澤正夫共編	医学書院
59	精神衛生のための１００か条	中沢正夫著	創造出版

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
60	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
61	精神科のソーシャルスキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
62	精神科のリハビリテーション	古川武彦著	医学図書出版
63	精神科のハーフウェイハウス	加藤正明著	星和書店
64	精神科　MOOK　3　覚せい剤・有機溶剤中毒	加藤伸勝著	金原出版
65	精神科　MOOK　4　境界例	保崎秀夫著	金原出版
66	精神科　MOOK　6　思春期の危機	下坂幸三著	金原出版
67	精神科　MOOK　8　老人期痴呆	長谷川和夫著	金原出版
68	精神疾患ケース・スタディ	森温理著	医学書院
69	精神疾患と心理学	神谷美恵子著	みすず書房
70	精神障害者との出会い	加藤伸勝編	医学書院
71	精神障害者のディケア	加藤正明共編	医学書院
72	精神分析用語辞典	村上仁監訳	みすず書房
73	精神分析セミナー　I　精神療法の基礎	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
74	精神分析セミナー　II　精神分析の治療機序	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
75	精神分析セミナー　III　フロイトの治療技法論	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
76	精神分析セミナー　V　発達とライフサイクルの視点	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
77	精神分裂病の治療と社会復帰	蜂矢英彦著	金剛出版
78	青年期境界例の治療	成田善弘共訳	金剛出版
79	側頭葉てんかん	宇野正威著	星和書店
80	チューリッヒ学派の分裂病論	人見一彦著	金剛出版
81	てんかん診療の実際	福山幸雄監訳	医学書院
82	断酒学	村田忠良著	星和書店
83	地域精神衛生の理論と実際	加藤正明監修	医学書院
84	日本の中高年　1（上）　中高年健康管理学	旗野脩一編	垣内出版
85	日本の中高年　1（下）　中高年健康管理学	旗野脩一編	垣内出版
86	日本の中高年　2　中高年女性学	旗野脩一編	垣内出版
87	日本の中高年　3　収穫の世代	袖井孝子編	垣内出版
88	日本の中高年　4　老人のプロセスと精神障害	戸川行男共編	垣内出版
89	日本の中高年　5　中高年にみる生活危機	本村汎共編	垣内出版

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
90	日本の中高年　6　病める老人を地域でみる	前田信雄著	垣内出版
91	ニュー　セックス　セラピー	野末源一訳	星和書店
92	脳と心を考える	井上英二編	講談社
93	方法としての事例検討	外口玉子著	看護協会出版会
94	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上和雄共著	牧野出版
95	夫婦家族療法	鈴木浩二訳	誠信書房
96	ボウルビィ母子関係入門	作田　勉訳	星和書店
97	分裂病家族の研究	井村恒郎著	みすず書房
98	メンタルヘルス解説辞典	大原健志郎編	中央法規出版
99	森田正馬全集　1	森田正馬著	白揚社
100	森田正馬全集　2	森田正馬著	白揚社
101	森田正馬全集　3	森田正馬著	白揚社
102	ユキの日記	笠原　嘉編	みすず書房
103	病むということ	江畑啓介訳	星和書店
104	ライフサイクルからみた女性の心	石川　中共訳	医学書院
105	臨床神経心理学	濱中淑彦共訳	文光堂
106	臨床体験をつなぐ事例検討	外口玉子編	バオバブ社
107	臨床てんかん学	和田豊治著	金原出版
108	老人心理へのアプローチ	長谷川和夫共著	医学書院
109	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田　晋著	創造出版
110	老人保健の基本と展開	松崎俊久編	医学書院
111	老人ぼけの理解と援助	三宅貴夫編	医学書院
112	老年期の精神科臨床	室伏君士著	金剛出版
113	老年期の精神障害	長谷川和夫著	新興医学出版社
114	老年の精神医学	加藤伸勝監訳	医学書院

63年度以降購入分

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
1	現代精神医学大系　1A　精神医学総論Ⅰ		中山書店
2	現代精神医学大系　1B1a　精神医学総論Ⅱa1		中山書店
3	現代精神医学大系　1B1b　精神医学総論Ⅱa2		中山書店
4	現代精神医学大系　1B2　精神医学総論Ⅱb		中山書店
5	現代精神医学大系　1C　精神医学総論Ⅲ		中山書店
6	現代精神医学大系　2A　精神疾患の成因Ⅰ		中山書店
7	現代精神医学大系　2B　精神疾患の成因Ⅱ		中山書店
8	現代精神医学大系　2C　精神疾患の成因Ⅲ		中山書店
9	現代精神医学大系　3A　精神症状学Ⅰ		中山書店
10	現代精神医学大系　3B　精神症状学Ⅱ		中山書店
11	現代精神医学大系　4A1　精神科診断学Ⅰa		中山書店
12	現代精神医学大系　4A2　精神科診断学Ⅰb		中山書店
13	現代精神医学大系　4B　精神科診断学Ⅱ		中山書店
14	現代精神医学大系　5A　精神科治療学Ⅰ		中山書店
15	現代精神医学大系　5B　精神科治療学Ⅱ		中山書店
16	現代精神医学大系　5C　精神科治療学Ⅲ		中山書店
17	現代精神医学大系　6A　精神症と心因反応Ⅰ		中山書店
18	現代精神医学大系　6B　精神症と心因反応Ⅱ		中山書店
19	現代精神医学大系　8　人格異常、性的異常		中山書店
20	現代精神医学大系　9A　躁うつ病Ⅰ		中山書店
21	現代精神医学大系　9B　躁うつ病Ⅱ		中山書店
22	現代精神医学大系　10A1　精神分裂病Ⅰa		中山書店
23	現代精神医学大系　10A2　精神分裂病Ⅰb		中山書店
24	現代精神医学大系　10B　精神分裂病Ⅱ		中山書店
25	現代精神医学大系　12　境界例、非定型精神病		中山書店
26	現代精神医学大系　15A　薬物依存と中毒Ⅰ		中山書店
27	現代精神医学大系　15B　薬物依存と中毒Ⅱ		中山書店
28	現代精神医学大系　18　老年精神医学		中山書店
29	現代精神医学大系　23A　社会精神医学と精神衛生Ⅰ		中山書店

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
30	現代精神医学大系　23B　社会精神医学と精神衛生Ⅱ		中山書店
31	現代精神医学大系　23C　社会精神医学と精神衛生Ⅲ		中山書店
32	現代精神医学大系　24　司法精神医学		中山書店
33	現代精神医学大系　25　文化と精神医学		中山書店
34	フロイド著作集1巻、精神分析入門（正続）	懸田克躬・高橋義孝訳	人文書院
35	フロイド著作集2巻、夢判断	高橋義孝訳	人文書院
36	フロイド著作集3巻、文化・芸術論	高橋義孝他訳	人文書院
37	フロイド著作集4巻、日常生活の精神病理学他	懸田克躬他訳	人文書院
38	フロイド著作集5巻、性欲論・症例研究	懸田克躬・高橋義孝他訳	人文書院
39	フロイド著作集6巻、自我論・不安本能論	井村恒郎・小此木啓吾他訳	人文書院
40	フロイド著作集7巻、ヒステリー研究他	懸田克躬・小此木啓吾他訳	人文書院
41	フロイド著作集8巻、書簡集	生松敬三他訳	人文書院
42	フロイド著作集9巻、技法・症例篇	小此木啓吾訳	人文書院
43	フロイド著作集10巻、文学・思想篇Ⅰ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
44	フロイド著作集11巻、文学・思想篇Ⅱ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
45	臨床脳波学	大熊輝雄	医学書院
46	クレペリンの精神医学1巻　精神分裂病	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
47	クレペリンの精神医学2巻　躁うつ病とてんかん	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
48	クレペリンの精神医学3巻　心因性疾患とヒステリー	遠藤みどり訳	みすず書房
49	遠藤四郎睡眠研究論集	遠藤四郎	星和書店
50	分裂病の身体療法	宇野昌人他訳	星和書店
51	躁うつ病の精神病理　1	笠原嘉編	弘文堂
52	躁うつ病の精神病理　2	宮本忠雄編	弘文堂
53	躁うつ病の精神病理　3	飯田真編	弘文堂
54	躁うつ病の精神病理　4	木村敏編	弘文堂
55	躁うつ病の精神病理　5	笠原嘉編	弘文堂
56	精神遅滞児（者）の医療・教育・福祉	櫻井芳郎他訳	岩崎学術出版社
57	岩波講座、子どもの発達と教育1．子どもの発達と現代社会		岩波書店
58	岩波講座、子どもの発達と教育3．発達と教育の基礎理論		岩波書店
59	岩波講座、子どもの発達と教育7．発達の保障と教育		岩波書店

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
60	分裂病の精神病理 4	萩野恒一編	東京大学出版会
61	青年の精神病理　1	笠原嘉・清水將之・伊藤克彦編	弘文堂
62	青年の精神病理　2	小此木啓吾編	弘文堂
63	青年の精神病理　3	清水將之・村上靖彦編	弘文堂
64	講座　生活ストレスを考える　1．生活ストレスとは何か	石原邦雄・山本和郎・坂本弘編	垣内出版
65	講座　生活ストレスを考える　2．生活環境とストレス	山本和郎編	垣内出版
66	講座　生活ストレスを考える　3．家族生活とストレス	石原邦雄編	垣内出版
67	講座　生活ストレスを考える　4．職場集団にみるストレス	坂本弘編	垣内出版
68	講座　生活ストレスを考える　5．学校社会のストレス	安藤延男編	垣内出版
69	メラニークライン著作集1．子どもの心的発達	責任編訳・西岡吕久・牛島定信著	誠信書房
70	メラニークライン著作集3．愛、罪そして償い	責任編訳・西岡吕久・牛島定信著	誠信書房
71	メラニークライン著作集4．妄想的・分裂的世界	責任編訳・小此木啓吾・岩崎徹他	誠信書房
72	メラニークライン著作集6．児童分析の記録 I	山上千鶴子訳	誠信書房
73	アルコール薬物依存	大原健士・田所作太郎編	金原出版株式会社
74	無意識の発見　上	アンリ・エレンベルガー著 木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
75	無意識の発見　下	アンリ・エレンベルガー著 木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
76	新しい子ども学　3巻　1育つ	小林登・小嶋謙四郎他著	海鳴社
77	新しい子ども学　3巻　2育てる	〃	〃
78	新しい子ども学　3巻　3子どもとは	〃	〃
79	アンナ・フロイド著作集　1　児童分析入門	岩村由美子・中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
80	アンナ・フロイド著作集　2　自我と防衛機制	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
81	アンナ・フロイド著作集　3　家庭なき幼児たち・上	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
82	アンナ・フロイド著作集　4　家庭なき幼児たち・下	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
83	アンナ・フロイド著作集　5　児童分析の指針上	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
84	アンナ・フロイド著作集　6　児童分析の指針下	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
85	アンナ・フロイド著作集　7　ハムステッドにおける研究・上	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
86	アンナ・フロイド著作集　8　ハムステッドにおける研究・下	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
87	アンナ・フロイド著作集　9　児童期の正常と異常	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
88	アンナ・フロイド著作集　10　児童分析の訓練	佐藤紀子・岩崎徹也・辻律子訳	岩崎学術出版社
89	講座、精神の科学　2　パーソナリティ		岩波書店

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
90	異常心理学講座4巻　1　学派と方法	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
91	異常心理学講座　3　人間の生涯と心理	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
92	異常心理学講座　4　神経症と精神病1	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
93	異常心理学講座　5　神経症と精神病2	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
94	井村恒郎著作集　1精神病理学研究	井村恒郎著	みすず書房
95	井村恒郎著作集　2脳病理学・神経症	〃	みすず書房
96	井村恒郎著作集　3分裂病・家族の研究	〃	みすず書房
97	新しい精神医学	高橋良・豊弘監修	ヘスコインターナショナル
98	老年の心理と精神医学	金子仁郎著	金剛出版
99	叢書・精神の科学　1巻精神の幾何学	安永浩著	岩波書店
100	叢書・精神の科学　2巻シンファンの病い	小出浩之著	岩波書店
101	叢書・精神の科学　4治療の場からみた分裂病	坂本暢典著	岩波書店
102	叢書・精神の科学　5正気の発見	内沼幸雄著	岩波書店
103	叢書・精神の科学　6心身症と心身医学	成田善弘著	岩波書店
104	叢書・精神の科学　7意識障害の人間学	河合逸雄著	岩波書店
105	叢書・精神の科学　8境界事象と精神医学	鈴木茂著	岩波書店
106	叢書・精神の科学　10精神と身体	遠藤みどり著	岩波書店
107	叢書・精神の科学　11脳と言語	野上芳美著	岩波書店
108	叢書・精神の科学　12貧困の精神病理	大平健著	岩波書店
109	叢書・精神の科学　13「非行」が語る親子関係	佐々木譲・石附敦著	岩波書店
110	井村恒郎・人と学問	懸田克躬編	みすず書房
111	人間性心理学への道（現象学からの提言）	村上英治編	誠信書房
112	生きること　かかわること	村上英治監修	名古屋大学出版会
113	人格の対象関係論　（フェァベーン著）	山口泰司訳	文化書房博文社
114	臨床的対象関係論　（フェァベーン著）	山口泰司・原田千恵子訳	文化書房博文社
115	性的例錯　（メダルト・ボス著）	村上仁・吉田和夫訳	みすず書房
116	性の逸脱　（ストー著）	山口泰司訳	理想社
117	子どもの治療相談①適応障害・学業不振・神経症	ウイニコット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
118	子どもの治療相談②反社会的傾向・盗みと愛情剥奪	ウイニコット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
119	摘画による心の診断	岩井寛著	日本文化科学社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
120	家族療法（ジェィ・ヘイリィ著）	佐藤悦子訳	川島書店
121	夫婦家族療法Ⅰ（Dグリック D・Rケスラー著）	鈴木浩二訳	誠信書房
122	集団精神療法の理論と実際	池田由子著	医学書院
123	心理面接の技術	前田重治著	慶応通信
124	コミュニテイ心理学	山本和郎著	東京大学出版会
125	日本の精神障害者	岡上和雄・大島巌・荒井元傳編	ミネルウァ書房
126	日常性の精神医学（ヴァン・デン・ベルグ著）	早坂泰次郎・矢崎好子訳	川島書店
127	表情病	阿部正著	誠信書房
128	現代精神医学の概念（サリヴァン著）	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
129	精神医学的面接（サリヴァン著）	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
130	発想の航跡	神田橋條治	岩崎学術出版社
131	身体の心理学（P・シルダー著）	稲永和豊監修	星和書店
132	岩波 心理学小辞典	宮城音弥編	岩波書店
133	精神病棟の20年	松本昭夫著	新潮社
134	精神障害・薄弱百問百答	児島美都子監修	中央法規出版
135	アメリカの精神医療	仙波恒雄訳・解説	星和書店
136	新精神保健法	厚生省保健医療局精神保健課監修	中央法規出版
137	適正飲酒ガイドブック		アルコール健康医学協会
138	痴呆老人対策	痴呆性老人対策推進部事務局編	中央法規出版
139	ぼけ老人の家庭介護手引き		厚生環境問題研究会
140	だれでもの精神科治療	小池清廉著	ルガール社
141	日本人の深層分析1　母親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
142	日本人の深層分析2　父親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
143	日本人の深層分析3　エロスの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
144	日本人の深層分析4　攻撃性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
145	日本人の深層分析5　夢と象徴の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
146	日本人の深層分析6　創造性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
147	日本人の深層分析7　病める心の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
148	日本人の深層分析9　子どもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
149	日本人の深層分析10　青年期の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
150	日本人の深層分析11　老いとるもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有　斐　閣
151	思春期の対象関係論	牛　島　定　信	金剛出版
152	痴呆老人の理解とケア	室　伏　君　士	金剛出版
153	薬物依存	加　藤　雄　司	金剛出版
154	分裂病者の行動特性	昼　田　源　四　郎	金剛出版
155	老年期精神障害の臨床	室　伏　君　士　編	金剛出版
156	E.ミンコフスキー　生きられる時間　1	中江育生・清水誠　訳	みすず書房
157	E.ミンコフスキー　生きられる時間　2	中江育生・清水誠・大橋博司訳	みすず書房
158	E.ミンコフスキー　精神分裂病	村　上　仁　訳	みすず書房
159	異常心理学講座　第9巻	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・木村敏責任編集	みすず書房
160	E.クレペリン <精神医学>2 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西丸甫夫訳	みすず書房
161	精神科看護とデイ・ケア	加藤政子・松元信子訳	医学書院
162	精神科看護の展開	外間邦江・外口玉子訳	医学書院
163	精神科看護と福祉	加藤政子・松元信子訳	医学書院
164	病院精神医療の展開	監修　加藤　伸勝	医学書院
165	PS.Powers,RC.Fernandez 神経性食欲不振症過食症の治療	監訳保崎秀夫・高木洲一郎	医学書院
166	R.K.コーニン編　ハンドブックグループワーク	馬場禮子　監訳	岩崎学術出版社
167	精神分析を語る	西　園　昌　久	岩崎学術出版社
168	精神医学図書総覧	小　林　司　編	岩崎学術出版社
169	ウォン教授の集団精神療法セミナー グループリーダーのあり方	秋山剛訳	日本集団精神療法学会第2回ウォン教授集団精神療法セミナー実行委員会発売:星和書店
170	ウォン教授の集団精神療法セミナー	山口隆・松原太郎監修	日本集団精神療法学会 発売：星和書店
171	精神医療における芸術療法	徳田良仁・式場聡	牧野出版
172	マルコム・レコーダー　裁かれる精神医学	秋元波留夫・大木善和	創造出版
173	D.W.ウィニコット　子どもと家庭	牛島定信　監訳	誠信書房
174	医心理学	原田憲一・小片寛・湯沢千尋・渡信夫	朝倉書店
175	心の病気と現代	秋　元　波　留　夫	東京大学出版会
176	精神障害者の社会復帰	寺谷　隆子　編	中央法規出版
177	ストレス診療ハンドブック	河野友信・吾郷晋浩	メディカルサイエンスインターナショナル
178	生活と福祉　別冊事例集　アルコール依存症 および精神障害特集		全国社会福祉協議会

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
179	パトグラフィ双書3　宮沢賢治	福島　章	金剛出版
180	パトグラフィ双書6　ドフトエフスキー	荻野恒一	〃
181	パトグラフィ双書8　ヘミングウェイ	伊藤高麗夫	〃
182	パトグラフィ双書9　志賀直哉	鹿野達男	〃
183	パトグラフィ双書10　川端康成	稲村博	〃
184	パトグラフィ双書12　高村光太郎	町沢静夫	〃
185	精神科MOOK　2　家族精神医学	編集企画　西園昌久	金原出版
186	〃　5　アルコール関連障害	〃　加藤正明	〃
187	〃　9　精神分裂病の治療と予後	〃　山下格	〃
188	〃　11　身体疾患と精神障害	〃　原田憲一	〃
189	〃　12　対人恐怖症	〃　高橋徹	〃
190	〃　13　躁うつ病の治療と予後	〃　更井啓介	〃
191	〃　14　青少年の社会病理	〃　藤原豪	〃
192	〃　15　精神療法の実際	〃　吉松和哉	〃
193	〃　16　自殺	〃　春原千秋	〃
194	〃　17　法と精神医療	〃　逸見武光	〃
195	〃　18　家庭と学校の精神衛生	〃　山田通夫	〃
196	〃　19　森田療法－理論と実際	〃　大原健士郎	〃
197	〃　20　精神科救急医療	〃　山崎敏雄	〃
198	〃　21　睡眠の病態	〃　菱川泰夫	〃
199	ヤスパース精神病理学研究	藤森英之訳	みすず書房
200	アルコール依存症の精神病理	斎藤学	金剛出版
201	精神分析治療の進歩	西園昌久	〃
202	非行の病理と治療	石川義博	〃
203	家庭内暴力	若林慎一郎・本城秀次	〃
204	性的異常の臨床	高橋進・柏瀬宏隆　編	〃
205	分裂病と構造	小出浩之	〃
206	心理臨床家の目指すもの	台利夫・新田健一・長谷川孫一郎	〃
207	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E ハガティ　著　分裂病と家族上	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃
208	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E ハガティ　著　分裂病と家族下	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
209	精神分裂治療の展開	西園昌久	金剛出版
210	DSM－Ⅲ－R 精神障害の分類と診断の手引き第2版	高橋三郎・花田耕一・藤縄昭	医学書院
211	内因性精神病	吉永五郎	医学書院
212	Wブランケンブルグ自明性の喪失	木村敏・岡本進・島弘嗣共訳	みすず書房
213	精神保健実践講座 ①精神保健の基礎理解	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	中央法規出版
214	〃 ②精神保健と精神科医療	加藤正明監・蜂矢英彦・南雲与志郎編	〃
215	〃 ③精神保健とリハビリテーション活動	加藤正明監・蜂矢英彦・岡上和雄編	〃
216	〃 ④精神保健の社会資源	加藤正明監・村田信男・大江基編	〃
217	〃 ⑤地域精神保健活動の理解と実際	加藤正明 監・村田信男・藤井克徳編	〃
218	〃 ⑥精神保健と家族問題	加藤正明監・滝沢武久・村田信男編	〃
219	〃 ⑦精神保健教育のあり方	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	〃
220	〃 ⑧精神保健行政と生活保障	加藤正明監・見浦康文・滝沢武久編	〃
221	〃 ⑨精神保健の法制度と運用	加藤正明監・小松源助・林幸男編	〃
222	〃 ⑩精神保健関係資料集	加藤正明監・見浦康文・中村俊哉編	〃
223	精神保健法詳解	精神保健法規研究会 編集	〃
224	精神科デイケア	精研デイケア研究会編・代表柏木昭	岩崎学術出版社
225	日本人の深層分析12 現代社会の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
226	精神科MOOK 26 精神科における医療と福祉	編集企画 蜂谷英彦	金原出版
227	援助困難な老人へのアプローチ	根本博司 編集	中央法規
228	分裂病を生きる	安斎三郎 編著	日本評論社
229	臨床ケースワーク	武田建 荒川義子	川島書店
230	臨床描画研究 Ⅰ 描画テストの読み方	家族画研究会編	金剛出版
231	臨床描画研究 Ⅱ 家族画による診断と治療	〃	金剛出版
232	臨床描画研究 Ⅲ 思春期、青年期の病理と描画	〃	金剛出版
233	臨床描画研究 Ⅳ 描画の臨床的活用	〃	金剛出版
234	臨床描画研究 Ⅴ イメージと臨床	〃	金剛出版
235	臨床描画研究Annex 1 家族イメージとその投影	〃	金剛出版
236	〃 2 私の表現病理学	〃	金剛出版
237	〃 3 描画を読むための理論背景	〃	金剛出版
238	治療構造論	岩崎徹也	岩崎学術出版社

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
239	精神障害者福祉	田村健二、坪上宏、浜田晋、岡上和雄	相川書房
240	過食の病理と治療	下坂幸三　編	金剛出版
241	精神医学は対人関係論である　H.S　サリヴァン著	中井久夫、宮崎隆吉、高木敬三	みすず書房
242	分裂病と家族の感情表出　J.レフ　C.ヴェーン著	三野善央、牛島定信　訳	金剛出版
243	医療の人類学	波平恵美子　監訳	海鳴社
244	思春期やせ症の家族	福田俊一　監訳	星和書店
245	家族療法の理論と実際　I	大原健士郎、石川元	星和書店
246	家族療法の理論と実際　II	大原健士郎、石川元	星和書店
247	戦略的心理療法の展開　ジョンヘイリー著	高石昇、横田恵子　訳	星和書店
248	「うつ」を生かす	大野　裕	星和書店
249	青年期精神衛生事例集	清水将之、北村陽英	星和書店
250	感情病および精神分裂病用面接基準	保崎秀雄	星和書店
251	精神科のロングターム、ケア	山川義夫、小口徹	協同医書出版社
252	家族療法ケース研究2　登校拒否	鈴木浩二	金剛出版
253	方法としての面接	上居健郎	医学書院
254	自我同一性研究の展望（青年期）	鑪幹八郎、山本力、宮下一博	ナカニシヤ
255	精神障害者の職業リハビリテーション	岡上和男、松為信男、野中猛	中央法規出版
256	自立のための援助論	久保紘章	川島書店
257	患者家族会のつくり方と進め方	外口玉子	川島書店
258	セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際	久保紘章	川島書店
259	家族変容の技法をまなぶ　G.R.パターソン	大渕憲一、春木豊	川島書店
260	精神を病むということ	秋元波留夫、上田敏	医学書院
261	増補　精神発達と精神病理	北田穣之助、馬場謙一、下坂幸三	金剛出版
262	性の臨床	河野友信	医学書院
263	中年期の精神医学	飯田眞	医学書院
264	医学モデルを超えて　E.G　ミシュラー著	尾崎新、三宅由子、丸井英二	星和書店
265	老人期痴呆の医療と看護	室伏君士	金剛出版
266	精神医学4　強迫神経症	遠藤みどり、稲浪正充	みすず書房
267	青年期　美と苦悩	大東祥孝、松本雅彦 新宮一成、山中康裕	金剛出版
268	思春期精神保健相談		㈳日本公衆衛生協会

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
269	人と場をつなぐケア	外口玉子	医学書院
270	精神分裂病研究の進歩	藤縄昭	星和書店
271	「家族」と治療する	石川元	未来社
272	初期分裂病	中安信夫	星和書店
273	自己愛と境界例　J.F　マスターソン著	富山幸佑、尾崎新　訳	星和書店
274	入院集団精神療法	山口隆、小谷英文	へるす出版
275	精神科コンサルテーションの技術　L.S.グリックマン著	荒木志朗、柴田史朗、西浦研志 訳	岩崎学術出版社
276	最近精神衛生（その理論と応用）	高木四郎	慶応通信
277	新中間管理職のメンタルヘルス	佐々木時雄	弘文堂
278	新版　精神衛生	小杉正太郎　編著	川島書店
279	職場のメンタルヘルス	加藤正明、精神衛生普及会　編	保健同人社
280	メンタルヘルス	加藤正明	創元社
281	ライフサイクル精神医学	西園昌久	医学書院
282	コーフト自己心理学セミナー　1　ミリアム・エルソン編	伊藤洸　監訳	金剛出発
283	遊びリテーション	竹内孝仁、稲川利光 三好春樹、村上重紀	医学書院
284	青年期の精神科臨床	清水將之	金剛出版
285	ブロイラー精神医学総論	切替辰哉	中央洋書出版
286	生涯発達学　R.Mラーナー　N.Aブッシュ　ロスナガール編	上田礼子　訳	岩崎学術出版
287	電話相談の基礎と実際	長谷川浩一　編集 横浜いのちの電話 調査研究部 編	川島書店
288	地図は現地ではない	中沢正夫	萌文社
289	岩波講座　子どもの発達と教育4　幼年期発達段階と教育1		岩波書店
290	精神医学の臨床研究　サリヴァン	中井久夫、山口直彦、松川周吾 訳	みすず書房
291	治療のダイナミックス	轟俊一、渡辺登	岩波書店
292	心理療法の諸原則　上　I.B ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星和書店
293	心理療法の諸原則　下　I.B ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星和書店
294	錯覚と脱錯覚	北山修	岩崎学術出版
295	サイコセラピー練習帳	丸山俊彦	岩崎学術出版
296	眠らぬダイヤル（いのちの電話）	稲村博、林義子、斉藤友紀雄	新曜社
297	分裂病の精神病理　16	上居健郎	東京大学出版社
298	森田式精神健康法	長谷川洋三	三笠書房

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
299	一般医のための森田療法	樋口正元	太陽出版
300	森田療法のすすめ	高良武久	白揚社
301	続日本　収容所列島の60年	竹村堅次	近代文芸社
302	境界例の臨床	牛島定信　著	金剛出版
303	グループサイコセラピー	川室優　訳	金剛出版
304	無意識1　無意識へのプロレゴーメナ	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
305	無意識2　無意識と言語	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
306	無意識3　神経学と無意識	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
307	無意識4　無意識と精神医学的諸問題	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
308	無意識5　無意識の社会学、哲学への影響	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
309	ある神経病者の回想録 ダニエル, パウル シュレーバー著	渡辺哲夫　訳	筑摩書房
310	東洋の狂気誌	小田晋	思索社
311	分裂病と他者	木村敏	弘文堂
312	精神分析と仏教	武田専	新潮選書
313	死に急ぐ子供たち　シンシア, R, フェファー	高橋祥友　訳	中央洋書出版部
314	引き裂かれた子供たち	池田由子	弘文堂
315	妻が危ない	池田由子	〃
316	心理療法論考	河合隼雄	新曜社
317	老いのソウロロギー（魂学）	山中康裕	有斐閣
318	陽性陰性症状評価尺度	山田、増井、菊本　訳	星和書店
319	老人虐待	金子善彦	星和書店
320	正常な「老い」と異常な「老い」	清田一民	星和書店
321	精神分裂病治療のストラテジー	浅井昌弘、八木剛平	国際医書出版
322	十代の四季	上田基	ミネルヴァ書房
323	児童精神保健	島田照三　森田啓吾 横山桂子　著	ミネルヴァ書房
324	別冊発達⑨乳幼児精神医学への招待	小此木啓吾　渡辺久子編	ミネルヴァ書房
325	老人福祉とは何か	一番ケ瀬康子　十古林佐知子著	
326	高齢化社会と介護福祉	一番ケ瀬康子 仲村優一　北川隆吉編	ミネルヴァ書房
327	現代人の精神異常	福田哲雄　著	ミネルヴァ書房
328	ゆれうごく家族	金田利子　杉浦	ミネルヴァ書房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
329	ストレスの心理学	リチャード・S・ラザルス スーザン・フォルクマン著	実務教育出版
330	逆転移1	ハロルド・F・サルーズ 杉本雅彦他訳	みすず書房
331	外来精神医学から	笠原嘉	みすず書房
332	家族療法ケース研究④	牧原浩著	金剛出版
333	家族に学ぶ家庭療法	鈴木浩二監修	金剛出版
334	非行の臨床	石川義博著	金剛出版
335	臨床精神医学講義	日大精神神経科	星和書店
336	自己愛と境界例	ジェームス・F・マスターソン著 富山幸佑　尾崎新著	星和書店
337	小児精神医学	新井清二郎　長畑正道他著	中山書店
338	老年期の性	大工原秀子	ミネルヴァ書房
339	性ぬきに老後は語れない	大工原秀子	ミネルヴァ書房
340	精神科リハビリテーション	J・K・ウイング　B・モリス編 高木隆郎監訳	岩崎学術出版社
341	異常心理学講座⑥	土居健郎　笠原嘉 宮本忠雄　木村敏責任編集	みすず書房
342	中井久夫著作集　1　分裂病	中井久夫	岩崎学術出版社
343	〃　2　治療	〃	〃
344	〃　3　社会・文化	〃	〃
345	〃　4　治療と治療関係	〃	〃
346	〃　5　病者と社会	〃	〃
347	〃　6　個人とその家族	〃	〃
348	〃　別巻1　中井久夫共著論文集	山中康裕編	〃
349	〃　別巻2　H・NAKAI風景構成法	山口直彦編	〃
350	コンサルテーション・リエゾンの実際	荒木富士夫編著	岩崎学術出版社
351	職場と心の健康　①企業と産業精神衛生	財団法人精神分析学振興財団編 岩崎徹也 小此木啓吾 武田専監修	東海大学出版会
352	〃　②企業と中高年	〃	〃
353	〃　③企業と家族	〃	〃
354	〃　④企業と転勤	〃	〃
355	〃　⑤個人と性格	〃	〃
356	安永治著作集　1ファントム空間論	安永治	金剛出版
357	〃　2ファントム空間論の発展	〃	〃
358	〃　3方法論と臨床概念	〃	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
359	精神科リハビリテーションの実際　1	F・N・ワッツ　D・H・ベネット編　福島裕監訳	岩崎学術出版社
360	精神科リハビリテーションの実際　2	F・N・ワッツ　D・H・ベネット編　福島裕監訳	岩崎学術出版社
361	精神科難治療例　私の治療	藤道男編	中外医学社
362	これからの精神保健・精神医療	谷中輝雄編	やどかり出版
363	十亀史郎講演集1	十亀記念事業委員会	伊勢出版
364	地図は現地ではない	中沢正夫	萌文社
365	心理劇とその世界	増野肇	金剛出版
366	サイコドラマのすすめ方	増野肇	金剛出版
367	異常心理学講座　第十巻　文化・社会の病理	土居健郎他	みすず書房
368	気分変調症	S・Wバートン　H・Sアキスアル	金剛出版
369	幻覚・妄想の臨床	濱中淑彦 河合逸雄 他編集	医学書院
370	子どもの心の臨床	中沢たえ子　著	岩崎学術出版社
371	シリーズ現代の病4　職場の病	河野友信編集	医学書院
372	精神保健と看護のための100か条	中沢正夫	萌文社
373	精神保健「家族教室」	全国精神保健相談者会 田中英樹他	萌文社
374	精神保健マニュアル	吉川武彦	南山堂
375	精神分裂病研究の進歩 1991 Vo2 No1	精神分裂病研究編集委員会	星和書店
376	〃　1992 Vo3 No1	〃	〃
377	臨床精神医学論集	土居健郎教授還暦記念論文集刊行会	
378	集団精神療法の進め方	山口隆 中川賢幸 編	星和書店
379	臨床心理学体系　①臨床心理学の科学的基礎	河合逸雄 福島章 他編集	金子書房
380	〃　②パーソナリティ	小川捷之 託摩武俊 他編集	〃
381	〃　③ライフサイクル	小川捷之 斉藤久美子 他編集	〃
382	地域精神保健活動の実際	吉川武彦編	金剛出版
383	安永浩著作集　症状論と精神療法	安永浩	〃
384	精神保健福祉の展開	岡上和雄編	相川書房
385	臨床心理学大系4　家族と社会	岡堂哲雄、鑪幹八郎 馬場禮子 編集	金子書房
386	〃　5　人格の理解[1]	安香宏、田中富士夫 福島章 編集	〃
387	〃　6　〃　[2]	村瀬孝雄、大塚義孝 安香宏 編集	〃
388	〃　7　心理療法[1]	小此木啓吾、成瀬悟策 福島章 編集	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
389	臨床心理学大系8　心理療法2	上里一郎、鑪幹八郎 前田重治　編集	金子書房
390	〃　9　〃　3	河合隼雄、水島恵一 村瀬孝雄　編集	〃
391	〃　10　適応障害の心理臨床	安井健三、小川捷之 安香宏　編集	〃
392	〃　11　精神障害の心理臨床	福島章、村瀬孝雄 山中康裕　編集	〃
393	シリーズ精神科症例集① 精神分裂病Ⅰ－精神病理－	木村敏　責任編集	中山書店
394	分裂病の精神病理と治療②	湯浅修一　編	星和書店
395	〃　③	中井久夫	〃
396	リバーマン実践的精神科リハビリテーション	ポール・リバーマン 安西信雄・池淵恵美　監訳	創造出版
397	メンタルヘルスシリーズ　サラリーマン・アパシー	延島信也　編	同朋舎
398	〃　働く女性のメンタルヘルス	馬場房子　編	〃
399	転換期に立つ精神病院	ゆうゆ編集部・氏家憲章	萌文社
400	狂気の社会史	ロイ・ポーター著　目羅公和訳	法政大学出版局
401	こころの病いと家族のこころ	滝沢武久	中央法規出版
402	老年性精神疾患	エミール・クレペリン　著 伊達徹　訳	みすず書房
403	河合隼雄著作集　5　昔話の世界	河合隼雄	岩波書店
404	〃　6　子どもの宇宙	〃	〃
405	〃　13　生きることと死ぬこと	〃	〃
406	地域精神保健実践シリーズ②　保健デイケア	全国精神保健相談員会編 田中英樹　ほか著	萌文社
407	慢性疾患と家族	フロマフルシュ、キャロル・M・アンダーソン編 野中猛・白石弘巳　監訳	金剛出版
408	精神科ディケアマニュアル	宮田勝	〃
409	脳障害者の心理療法	小山充道	北海道大学図書刊行会
410	憑依と精神病	高畑直彦、七田博文、内潟一郎	〃
411	児童虐待（危機介入編）	斉藤学	金剛出版
412	これからの地域保健	厚生省健康政策局計画課監修	中央法規出版
413	子どもの虐待防止	児童虐待防止制度研究会編	朱鷺書房
414	老いの心と臨床	竹中星郎	診療新社
415	Alcoholism : Origins and Outcome	R.M.Rose・J.E.Barrett	RAVEN
416	Handbook of Social Psychiatry	A.S.Henderson・G.Burrows	ELSEVIER
417	Mental Health in the Elderly	H.Häfner・G.Moschel N.Sartorius	Springer-Verlag
418	Stress testing Edition 3	F.A.Davis.	M.H.ELLESTAD

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
419	Hysteria and Related Mental Disorders	D.W.Abse	WRLGHT
420	Social Support, Life Events, and Depression	N.Lin・A.Dean・Alfred Dean W.N.Ensel	ACADEMIC PRESS
421	私の分裂病観	中沢洋一	金剛出版
422	地域精神保健実践マニュアル	吉川武彦 竹島正	金剛出版
423	精神分裂病の心理社会治療	藤縄昭 高井昭裕 編	金剛出版
424	力動指向的芸術療法	マーガレット・ナウムブルグ著 中井久夫監修、内藤あかね訳	金剛出版
425	職場のメンタルヘルス	加藤正明 精神衛生普及会 編	保健同人社
426	1995 長寿社会行政の展望	政府関係庁省	労働行政資料調査会
427	精神分裂病者の責任能力	西山詮	振興医学出版社
428	精神医学を築いた人びと上・下	松下正明	ワールドプランニング
429	病いの語り	アーサー・クライマン	誠信書房
430	災害ストレスと心のケア	荒木憲一、川崎ナヲミ 長岡興樹、中根允文	医療薬出版
431	逆転移1，2，3	ハロルド・F・サールズ	みすず書房
432	精神障害者の地域福祉	日本社会事業大学をかこむ地域連絡会 全国精神障害者家族会連合会	相川書房
433	誰にもわかる分裂病とそのケア	ジョン・F・ソーントン メアリーV、シーマン 編著	中央法規
434	分裂病の精神病理と治療1～5	吉松和也、湯浅修一、中井久夫 飯田眞、永田俊彦	星和書店
435	分裂病症状をめぐって	村上靖彦	星和書店
436	続 精神医学を築いた人びと上・下	松下正明	ワールドプランニング
437	ケースマネージメント入門	デイビットP・マクスリ著	中央法規
438	精神障害者地域生活支援センターの実際	全国精神障害者社会復帰施設協会	中央法規
439	心的外傷と回復	ジュディス・L・ハーマン	みすず書房
440	精神保健リハビリテーション	C．ヒューム、I．プレン	岩崎学術出版
441	セルフヘルプ・グループ	アルフレッド・カッツ	岩崎学術出版
442	行動療法2	山上敏子	岩崎学術出版
443	虐待を受けた子どものプレイセラピー	ギル	誠信書房
444	子どもと家族への援助	村瀬代子	金剛出版
445	分裂病の精神病理と治療8	中安信夫	星和書店
446	内観療法	川原隆造	新興医学出版
447	薬物依存	加藤伸勝	新興医学出版
448	ストレス教室	山本晴義	新興医学出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
449	依存症－35人の物語	なだいなだ	中央法規出版
450	DSM－Ⅳ 精神疾患の分類と診断の手引き	高橋三郎、大野 裕、染矢俊幸訳	医学書院
451	ICD－10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン	融 道男、中根允文、小見山実監訳	医学書院
452	精神分裂病 臨床と病理1	松本雅彦編	医学書院
453	治療薬マニュアル	高久史麿、鴨下重彦監修	医学書院
454	精神医学外伝	クリスティアン・ミュラー著	星和書店
455	精神医学百年史	岡 不二太郎 訳編	創造出版
456	これからの精神医療と福祉		
457	精神科リハビリテーション実践ガイド	H・Y・エクダヴィ A・M・コニング 著	星和書店
458	芸術療法 全2巻	中井久夫・山中康裕他監修	岩崎学術出版社
459	トラウマの臨床心理学	西澤 哲	金剛出版
460	精神医学レビュー 9 思春期の精神障害－今日的問題－	西岡呂久 編集	ライフ・サイエンス
461	〃 11 ヒポコンドリー（心気）	高橋 徹 編集	〃
462	〃 12 精神分裂病の再発	太田龍朗 編集	〃
463	〃 14 OCD	成田善弘 編集	〃
464	〃 15 精神分裂病者のリハビリテーション	蜂矢英彦 編集	〃
465	〃 18 精神科治療における家族	下坂幸三 編集	〃
466	〃 24 精神障害の疫学	大塚俊男 編集	〃
467	〃 30 精神疾患の一次予防	岡崎祐士 編集	〃
468	〃 別巻 21世紀に向けて精神分裂病を考える	融道男・大森健一 編集	〃
469	精神保健福祉士養成セミナー 第1巻	精神保健福祉士養成セミナー編集委員会	へるす出版
470	〃 第2巻	〃	〃
471	〃 第3巻	〃	〃
472	〃 第4巻	〃	〃
473	〃 第5巻	〃	〃
474	〃 第6巻	〃	〃
475	〃 第7巻	〃	〃
476	〃 第8巻	〃	〃

〈定期刊行物〉

精神医学	医学書院
日本社会精神医学会	星和書店
アルコール医療研究	〃
集団精神療法	日本集団精神療法学会
ソーシャル　ワーク研究	相川書房
季刊精神療法	金剛出版
The American Journal of Psychiatry	Official Journal of the American Psychiatric Association
児童・青年精神医学とその近接領域	日本児童青年精神医学会
老年精神医学雑誌	ワールドプランニング
心理学評論（Vol32 No1～4，Vol33 No1～4）	心理学評論刊行会
心理臨床	星和書店
日本精神病院協会雑誌	日本精神病院協会
臨床精神医学	国際医書出版
精神障害と社会復帰	やどかり出版
公衆衛生	医学書院
季刊ゆうゆう	萌文社
週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所
季刊職リハネットワーク	日本障害者雇用促進協会
JDジャーナル	日本障害者リハビリテーション協会
ぜんかれん	全国精神障害者家族会連合会

〈ビデオテープ〉

マイクロカウンセリングⅠ　基本的かかわり技法　前編

〃　Ⅱ　〃　後編

老人ボケを防ぐには

社会人としての言葉使いの基本

作業療法　生活を拡げる治療と援助

老人と飲酒

アルコールと循環器

肝臓とアルコール代謝

あと一杯が飲めるか

与越市つくしの里の実践から

地域ぐるみでおこなわれている社会復帰活動を紹介する

こころの病をかかえて ―― 精神障害者は今

病院を出て街で働きたい　報道特集（1987年）

君は空の青さを知っているか ── 精神障害者が地域で生きていくために

今ここにいきる ── 精神障害者とともに

災害と心のケアハンドブック

ひとりぼっちをなくそう ── 精神障害者本人の会

そよ風はどこにでも　～地域精神保健の実際～

　第一巻：いつでも　どこでも　だれにでも

　第二巻：くらす　はたらく　つどう

家族のための分裂病講座

　正しい知識は回復への道

　ゆっくり治療し、再発を防ごう

　知っておきたい薬の知識

あちこたねえ

　精神障害者の地域生活支援

ケースの心をとらえる面接

　第１巻：面接の基本

　第２巻：面接技術の向上をめざして

未成年者にアルコールなんかいらない

老化と飲酒

おかえり

ひらく　かける　つなぐ　～精神保健ボランティア～

　第１巻：いっしょにいこうよ

　第２巻：スタンバイミー

〈精神保衛啓発用パネル〉

Ⅰこころの健康づくりシリーズ（７枚）

こころの健康とは

こころの病気にかかる人はどれくらい？

こころとからだ

ライフサイクルと心の病

こころの問題はどこへ相談すればいいの？

こころの健康づくり

生活環境とストレス

Ⅱ社会復帰シリーズ（７枚）

社会復帰のための４要素

ディケアとは

共に生きる社会

社会復帰のための社会資源－１．制度－

〃　　－２．施設と活動－

共同作業所とは

家族会活動

Ⅲ（ライフサイクル）思春期シリーズ（5枚）

思春期のこころ　　思春期のからだ

親ばなれ　　子ばなれ

思春期の心の病のサイン

Ⅳ（ライフサイクル）老年期シリーズ（10枚）

老年期の心と体の特徴　　老年期の心の病（精神障害）

痴呆とは①　　痴呆とは②

仮性痴呆　　痴呆の予防

痴呆の介護①　　痴呆の介護②

痴呆はどうして起こる　　健やかなる老後

〈寄贈本〉

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	シンナー乱用の治療と回復	小沼杏坪著	(財)ヘルスワーク協会
2	ドラッグ世代	水谷修	太陽企画出版
3	お酒ってなんだろう	今成知美	岩崎書店
4	タバコってなんだろう	小沢杏子	岩崎書店
5	ストップ・ザ「たばこ・酒・薬物乱用」	有田幸男編著	東峰書房
6	依存症（35人の物語）	なだいなだ・吉岡隆・徳永雅子 編	中央法規
7	よくわかる覚せい剤問題一問一答	関紳一監修	合同出版
8	中高生の薬物汚染	水谷・原田・関・吉岡・近藤・森野他著	健康双書
9	薬物から家族を守る	小森榮	三一書房
10	さらば、哀しみのドラッグ	水谷修	高文研
11	薬物依存症とは何か	東京ダルク編集委員会編	東京ダルク
12	親と教師のための覚せい剤問題入門	子どもと教育・文化を守る埼玉県民会議 編	合同出版
13	援助者のためのアルコール・薬物依存症　Q&A	吉岡隆 編	中央法規
14	ドラッグ（薬物）ってなんだろう	水澤都加佐	岩崎書店
15	薬物乱用と家族	斉藤学著	(財)NCスクール協会
16	依存性薬物シリーズ1　ストップ　ドリンキング	丸山勝也監修	日本教育新聞社
17	〃　2　シャットアウト　スモーキング	浅野牧茂監修	〃
18	〃　3　ドン・ドゥ　ドラッグ	小沼杏坪・小田晶彦・原田幸男 監修	〃
19	青少年のための自殺予防マニュアル	高橋祥友著	金剛出版
20	ドラッグ社会への挑戦	小森榮著	丸善ライブラリー

平成11年度版　こころの健康センター所報

平成12年７月　発行

三重県こころの健康センター
（精神福祉センター）

〒514-1101　久居市明神町2501－１
三重県久居庁舎内
電話　059　255－2151